

# エーゲ地方産業調査

イズミル、マニサ、デニズリを中心とした経済・投資環境に関して

2018年7月

日本貿易振興機構（JETRO）  
イスタンブール事務所  
海外調査部 中東アフリカ課

**【免責条項】**

本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。  
ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本報告書で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載

## 目 次

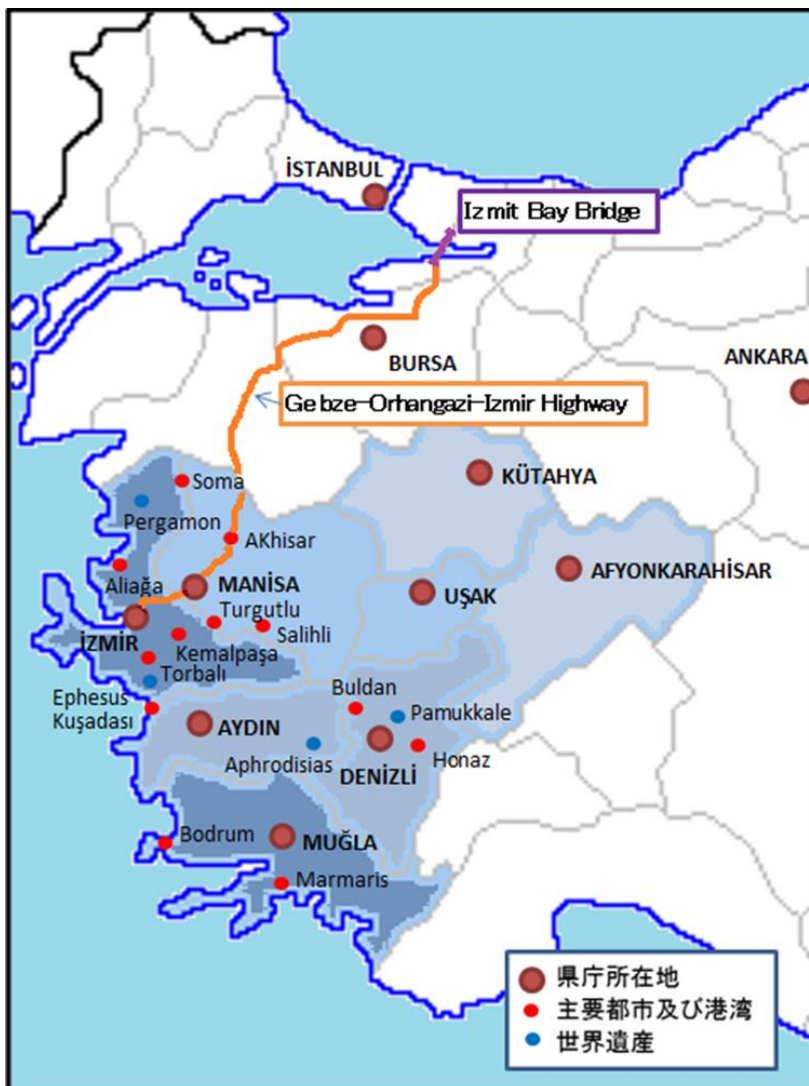
はじめに .....	1
I. エーゲ地方概要.....	2
<エーゲ地方の農業> .....	2
<エーゲ地方の工業製品> .....	3
<エーゲ地方の貿易> .....	3
<投資インセンティブ> .....	4
<エーゲ地域の開発機構> .....	5
<イスタンブールの代替としての工業地域、物流拠点> .....	5
II. 欧州への玄関港～イズミル .....	7
1. イズミル県概要 .....	7
2. 貿易動向.....	7
3. 産業構造.....	8
<農業・畜産業> .....	8
<製造業> .....	8
4. 物流インフラ .....	12
<イズミルの海運> .....	12
<陸運:鉄道網> .....	15
<陸運:道路網> .....	16
<空運> .....	17
5. 産業インフラ .....	17
<イズミルの公認工業地帯(OIZ)の特色> .....	17
<FZ概要と特色> .....	17
III. 家電産業の集積地～マニサ(MANİSA) .....	19
1. マニサ県の概要 .....	19
2. 貿易動向.....	19
3. 産業構造.....	20
<農業・畜産業> .....	20
<製造業> .....	20
4. 産業インフラ .....	23
<物流環境> .....	23
<マニサの公認工業地域(OIZ)> .....	23
IV. ホームテキスタイルの伝統～デニズリ(DENİZLİ) .....	26
1. デニズリ県の概要 .....	26
2. 貿易動向.....	26
3. 産業構造.....	27

<農業・畜産業>.....	27
<製造業>.....	28
4. 産業インフラ.....	32
<物流環境>.....	32
<デニズリの公認工業地域(OIZ)、テクノパーク>.....	32
V. エーゲ地方における日系企業動向.....	34

## はじめに

エーゲ地方はトルコの GDP の約 13%を占める経済規模を持ち、家電、石油化学、繊維、農業・食品など幅広い産業が見られる。特に中核都市であるイズミルは、イスタンブール、アンカラに次ぐ規模の人口を抱え、同地域最大の港湾都市として欧州への輸出玄関口と位置付けられている。近年、こうした状況に着目してイズミルやマニサへの日系企業の進出も見られており、イスタンブールに次ぐ進出拠点としても着目される。ジェトロイスタンブール事務所では、新たな市場開拓や進出先の候補となりうる地域として、エーゲ地方 8 県（沿岸部のイズミル、アイドゥン、ムーラ、内陸部のマニサ、デニズリ、キュタヒヤ、ウシャク、アフヨン・カラヒサル）のうち、産業や人口の規模が大きいイズミル、マニサ、デニズリの 3 つの県について、産業・貿易・企業動向を重点的に報告する。

図 1. エーゲ地方地図



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

## I. エーゲ地方概要

トルコのエーゲ地方(トルコ語ではエゲ:EGE)は、古代ギリシャ文明のイオニア、カリア、内陸のリディア文明を包括する豊かな歴史を持つ地域で、オスマン帝国末期まではギリシャ人が多く住む地域だった。トルコ語でギリシャを「ユナニスタン」と呼ぶが、これはイオニア人の住む地域(イオネ+ペルシヤ語の地名接尾辞-スターン)を語源とする。トルコ共和国成立後の民族交換によってエーゲ地方のギリシャ系住民のほとんどはギリシャに移住を余儀なくされたが、なおギリシャ系の影響が色濃く残る地方である。沿岸部は古代より豊かな農産物を産出し、内陸部は、農産物、鉱物資源の供給地として食品加工や建材、家具などの周辺産業を支えてきた。現在は、家電、石油化学、繊維、自動車部品、金属加工などの産業がイズミル港の利点を活かしながら発展を続けている。エーゲ地方全体の経済規模はトルコ全体のGDPの約12.7%を占め、人口は12.9%を占めている(表1)。

表1. エーゲ地方経済統計(2014年)

	名目GDP (100万TL)	名目GDP構成比(%)					1人当たり GDP(TL)	1人当たり GDP(USD)	人口(人) (2014年)	人口(人) (2016年)	伸び率 14/16(%)
		農業	工業	サービス	合計	税・補助金					
トルコ	2,044,466	6.6	28.2	53.7	88.4	11.6	26,489	12,112	77,695,904	79,814,871	2.7
イスタンブール	622,762	0.1	26.7	61.6	88.4	11.6	43,645	19,957	14,377,018	14,804,116	3.0
イズミル	127,429	4.8	32.7	50.9	88.4	11.6	31,179	14,257	4,113,072	4,223,545	2.7
アイドゥン	19,723	16.6	20.8	51.0	88.4	11.6	19,121	8,743	1,041,979	1,068,260	2.5
デニズリ	24,056	12.8	33.7	42.0	88.4	11.6	24,772	11,327	978,700	1,005,687	2.8
ムーラ	23,830	13.9	16.6	58.0	88.4	11.6	27,061	12,374	894,509	923,773	3.3
マニサ	33,138	19.8	34.8	33.8	88.4	11.6	24,300	11,112	1,367,905	1,396,945	2.1
アフヨン・カラヒサル	12,877	23.8	19.7	44.9	88.4	11.6	18,219	8,331	706,371	714,523	1.2
キュタヒヤ	11,321	11.9	30.5	46.0	88.4	11.6	19,799	9,053	571,554	573,642	0.4
ウシャク	7,626	12.1	37.2	39.1	88.4	11.6	21,916	10,021	349,459	358,736	2.7
<b>エーゲ地方計</b>	<b>260,000</b>	<b>10.6</b>	<b>30.1</b>	<b>47.7</b>	<b>88.4</b>	<b>11.6</b>	<b>25,939</b>	<b>11,861</b>	<b>10,023,549</b>	<b>10,265,111</b>	<b>2.4</b>

出所:トルコ統計機構(TUIK)

### <エーゲ地方の農業>

エーゲ地方は、地中海性気候に属し、夏期は乾燥し、冬期は雨期となるが、比較的温暖で雨量は多くはない。内陸の山地部では冬期に降雪も見られる。

トルコの農業は、全体的に中小規模農家が大宗を占めており、集約化が遅れている。これは農家では分割相続する習慣が一般的なことによる。このため、農業機械も小型が一般的で、トルコの主要トラクター製造企業ハットト・トラクトウル社(Hattat Traktör)<sup>1</sup>、テュルク・トラクトウル社(Türk Traktör)<sup>2</sup>などはいずれも小型トラクターの生産を主力としている。

エーゲ地方の農産物は、オリーブ、ぶどう、いちじく、綿花、たばこなどが中心となっている。アイドゥンはイチジクの本産地とも言われ、同県で生産される干しいちじくは日本にも輸出されている。マニサはスルタナ種のぶどうの生産でも知られている。イズミルのトルバルには、JTI、Philip Morris(PHILSA)がたばこの生産工場を持つ。アフヨン・カラヒサルは食肉関連製品でトルコ最大の輸出地域となっている。

<sup>1</sup> ハットト・グループ傘下企業 <http://www.hattattractor.com/>

<sup>2</sup> コチ・ホールディングとCNH インダストリアル(英・蘭)との合弁企業 <http://www.turktraktor.com.tr/>

鉱物資源では、キュタヒヤのホウ素資源が知られ、日本へも輸出されている。トルコのホウ素は、世界の埋蔵量の 72.5%を占めるとされ、第 2 位のロシア(構成比 7.7%)、米国(同 6.2%)と比べても圧倒的である(現在、ホウ素は政府の専売)。また、キュタヒヤはセラミック生産で国内最大となっている。マニサからアイドゥン、ムーラにかけては長石が有名で、世界の 10%の埋蔵量を有するとされる。また、アフヨン・カラヒサルは大理石の一大生産地として知られる。ベルガマ、ウシヤクには金の埋蔵も見られる。また、デニズリ、アフヨン・カラヒサル、キュタヒヤは、地熱資源に恵まれており、地熱発電だけでなく近年は温泉観光にも力を入れ始めている。

### <エーゲ地方の工業製品>

イズミル北部に石油化学産業の集積地があり、中・南部には食品やたばこなどの食品加工業が広がる。イズミルの北東に接するマニサには家電を中心とした工業クラスターがあり、イズミル港の後背地という有利な立地を生かしている。また、デニズリにかけての内陸部には農業、鉱業だけでなく地熱などのエネルギー資源に恵まれ、再生可能エネルギー分野においても開発が始まっている。また、デニズリは古くから繊維産業で知られており、繊維原料の供給地として、ブルサやチュクロヴァ地方と並ぶ一大集積地となっている。

トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した 2016 年の輸出企業上位 1,000 社のうち最大のイスタンブールが 434 社に対して 150 社がエーゲ地方に所在している。

### <エーゲ地方の貿易>

エーゲ地方の貿易額のシェアはトルコ全体の 8.3%とマルマラ地方に次ぐ規模で、特にイズミル(国内第 4 位)、マニサ(同 8 位)、デニズリ(同 10 位)が貿易の中心となっている。なお、トルコの貿易額全体の 56.3%(2016 年、以下同)がイスタンブールに集中しており、マルマラ地域全体では 68.7%を占めている。

表2. トルコの県別輸出(2016年、上位11県) (単位:1,000ドル、%)

	輸出	2015年	2016年	構成比	伸び率	寄与度
順位	合計	143,838,871	142,529,584	100.0	△ 0.9	△ 0.9
1	イスタンブール	77,009,984	76,071,914	53.4	△ 1.2	△ 0.7
2	ブルサ	8,634,502	9,765,910	6.9	13.1	0.8
3	イズミル	8,108,513	8,330,122	5.8	2.7	0.2
4	コジャエリ	7,402,941	6,527,579	4.6	△ 11.8	△ 0.6
5	アンカラ	7,048,777	6,463,475	4.5	△ 8.3	△ 0.4
6	ガズリアンテブ	6,330,321	6,418,991	4.5	1.4	0.1
7	サカルヤ	1,943,278	2,553,889	1.8	31.4	0.4
8	デニズリ	2,516,246	2,403,335	1.7	△ 4.5	△ 0.1
9	マニサ	1,839,282	1,874,348	1.3	1.9	0.0
10	ハタイ	1,826,646	1,744,917	1.2	△ 4.5	△ 0.1
11	アダナ	1,683,497	1,607,018	2.1	△ 4.5	△ 0.1

出所:トルコ統計機構(TUIK)

表3. トルコの県別輸入(2016年、上位11県)

(単位:1,000ドル、%)

	輸入	2015年	2016年	構成比	伸び率	寄与度
順位	合計	207,234,359	198,618,235	100.0	△ 4.2	△ 4.2
1	イスタンブール	118,040,297	116,097,055	58.5	△ 1.6	△ 0.9
2	アンカラ	9,710,506	10,837,711	5.5	11.6	0.5
3	イズミル	8,695,609	8,811,052	4.4	1.3	0.1
4	ブルサ	8,050,555	8,710,001	4.4	8.2	0.3
5	コジャエリ	8,439,894	8,063,742	4.1	△ 4.5	△ 0.2
6	ガズリアンテプ	4,884,123	4,816,682	2.4	△ 1.4	△ 0.0
7	マニサ	3,303,398	2,702,136	1.4	△ 18.2	△ 0.3
8	ハタイ	3,232,425	2,570,899	1.3	△ 20.5	△ 0.3
9	サカルヤ	1,488,594	2,113,319	1.1	42.0	0.3
10	アダナ	2,048,362	1,803,482	0.9	△ 12.0	△ 0.1
11	デニズリ	1,902,001	1,666,338	0.8	△ 12.4	△ 0.1

出所:トルコ統計機構(TUIK)

### <投資インセンティブ>

トルコの投資優遇措置<sup>3</sup>は、(1)一般投資インセンティブ制度、(2)地域投資インセンティブ制度、(3)大規模投資インセンティブ制度、(4)戦略的投資インセンティブ制度からなる4制度で構成される。支援スキームは、付加価値税の免除、関税の免除、法人税減税、社会保障保険料、金利、土地利用等の優遇措置、付加価値税の還付、所得税の控除からなり、それぞれ投資規模や投資地域によって適用が異なる。

投資地域(Region)は、トルコ国内の開発度合いやGDP規模によって、1~6のカテゴリーに分けられており、エーゲ地方では、Region1がイズミル、ムーラ、Region2がアイドゥン、デニズリ、Region3がマニサ、ウシャク、Region4がキュタヒヤ、アフヨンとなっている。投資インセンティブ制度は、主に、こうした地域投資インセンティブのカテゴリーと投資規模、種類の組み合わせによって提供されることになる。

一般投資インセンティブは、Region1~2で最低投資額100万リラ、Region3~6で50万リラを条件に投資プロジェクト用設備に対する付加価値税免除、および輸入関税免除が提供される。地域投資インセンティブは、これに加えて各Region別の条件によって、減税、社会保障保険料支援、金利支援、土地利用にかかわる優遇措置、付加価値税の還付、所得税の控除が提供されることになる。

さらに一定の産業分野においては、投資期間および事業期間によって、地域カテゴリーに限らずRegion5クラスの優遇措置を受けることもできる。温泉観光、採鉱、物流、防衛産業、自動車製造、エネルギー、省エネ、先端技術等の戦略投資がこれにあたる。同様にミディアムハイテクノロジー産業においてはRegion4クラスの優遇措置を受けることができる。また、すべての投資において、投資先が公認工業地域(OIZ)内となれば、地域カテゴリーは1段階下の優遇措置の対象となる。

<sup>3</sup>大型投資、戦略投資、研究開発を含む投資インセンティブ、フリーゾーンなどに関する詳細は以下サイトを参照。  
<http://www.invest.gov.tr/ja-JP/investmentguide/investorsguide/Pages/Incentives.aspx>  
[https://www.jetro.go.jp/world/middle\\_east/tr/invest\\_03.html](https://www.jetro.go.jp/world/middle_east/tr/invest_03.html)



## <エーゲ地域の開発機構>

トルコ開発省傘下に各地域の投資、開発を支援する下部組織、開発機構(Kalkınma Ajansı)があり、外資系企業の誘致などを行っている。開発機構の編成は、トルコの地方行政区分によって管轄されていることから、イズミルと密接な経済関係を有するマニサがキュタヒヤの管轄下にあるなど、必ずしも合理的なものではないが、同機構は海外からの投資を誘致する ISPAT(トルコ投資誘致機構)からのバトンをうまく引き継いでいる。エーゲ地方の経済の現状及び可能性を見るには、そのイズミルを中心とした工業、農業、サービス業の位置づけを概観することで、海外および国内の市場への展開の一助となるだろう。

表4. エーゲ地方開発機構

担当開発機構		行政区分		投資インセンティブ地域区分
İZKA	www.izka.org.tr	イズミル	İZMİR	Region 1
ZAFER	www.zafer.org.tr	キュタヒヤ	KÜTAHYA	Region 4
		マニサ	MANİSA	Region 3
		アフヨンカラヒサル	AFYONKARAHİSAR	Region 4
		ウシャク	UŞAK	Region 3
GEKA	www.gmka.org.tr	デニズリ	DENİZLİ	Region 2
		アイトウン	AYDIN	Region 2
		ムーラ	MUĞLA	Region 1

出所：ジェトロイスタンブール事務所

## <イスタンブールの代替としての工業地域、物流拠点>

トルコ経済の中心部であるマルマラ地方が経済の中心地として成長した背景には、巨大な消費マーケットとしてイスタンブールを抱え、欧州やロシアなどへの物流のハブとなる港湾を備えた工業地帯を東部に抱えていることによる。エーゲ地方も同様にイズミルという大消費地、港湾都市を抱える特徴を持っているが、イスタンブールに比べると発展は局地的にとどまり、後発感が強かった。しかし、近年、トルコ全体の経済発展が進んだことや、イスタンブールに一極集中する経済活動によりマルマラ地方での投資コストが急騰したことで、産業界ではマルマラ地方に代わる工業地域としてエーゲ地方への関心が高まっている。

現在、エーゲ地方は、イズミルを核に、北部アリアーに石油化学会社(ペトキム)を中心とした石油化学産業、東北部マニサにトルコ家電大手ヴェステル(ゾルル財閥)をはじめとした家電産業やホーム・エレクトロニクスのクラスターとも言える集積が見られる。また、沿岸部の豊かな観光資源、南部の農業・食品・たばこ産業のほか、昨今の再生可能エネルギーへの関心が高まる中、風力、太陽光発電、東部における地熱ポテンシャルも注目され始めている。エーゲ地方の工業用電力における地熱発電の割合はトルコでは比較的大きい。

このように、イズミルから扇状に広がるエーゲ地方の多様な産業の可能性は、物流インフラの整備、産業のクラスターが進行する過程で、テクノパークなどイノベーションの拠点としての可能性にも期待が高まっている。また、イズミルは、人口規模でトルコ第3の都市であることから、教育水準の高いホワイトカラーを中心とした人材の蓄積も見られ、アリアーやマニサなど利便の良い周辺工業地域への労働力供給地としても有利な位置にある。特に生産拠点のある内陸部には勤勉な労働力の存在も指摘されている。

物流面ではマルマラ地方とのアクセスが大きく改善している。2016年6月にIHIと伊藤忠商事のコンソーシアムによるイズミット湾横断橋(オスマン・ガーズィー橋)が開通したことで、同湾縦断の所要時間が1~1時間半短縮された。さらに、2019年に開通予定のイスタンブールのアジア側とイズミルを結ぶゲブゼーイズミル高速道路(BOT 約420km)が完成すれば、所要時間は約8時間から5時間まで短縮され、両都市間の移動がさらに大幅に短縮される。ダーダネルス海峡のルートでは、韓国の大林産業とSK建設が主導するコンソーシアムが架橋(3.7キロ)することが決まっております(2023年開通予定)、マルマラ西部およびEU(ギリシャ、ブルガリア)とのアクセス時間も短縮されるものと期待されている。イズミルから首都アンカラへのアクセスは、陸路で約7時間であるが、アンカラ-シワス高速鉄道計画や2017年10月末に開通したバクー-トビリシ-カルス鉄道を通じてイラン、コーカサス諸国、中央アジアに至る長大な輸送回廊にアクセスすることも可能となる。トルコ政府はこのシルクロードの「中央回廊」を中国の「一帯一路」構想にリンクさせることを宣言している。イズミルから地中海西部の主要都市であるアンタルヤへの物流も約6時間など、エーゲ地方は欧州への玄関口としてだけでなく、大きな人口を抱える国内主要都市へのアクセスも整い始めているといえる。18世紀に欧州列強の東方貿易の拠点として繁栄したイズミルを中心に、エーゲ地方が再び脚光を浴びる時代が迫っているのかも知れない。

## II. 欧州への玄関港～イズミル

### 1. イズミル県概要

イズミル県の人口は 422 万 3,545 人と国内第 3 位の都市で、エーゲ地方の人口の約 4 割が集中する。古代から続く同地域最大の港湾都市として欧州への玄関口と位置付けられている。オスマン帝国時代には英国のレバント会社(1581-1825)の拠点として、東方貿易の中心になっていた。政治的には伝統的に欧州的な世俗主義の勢力が強い地域となっており、イズミル市は欧州の影響を色濃く残している地域ともいえる。また、イズミル市は見本市の開催では 85 年以上の歴史を持ち、2013 年に 2020 年万博開催地に立候補したものの惜しくもドバイに敗れた。一人当たりの GDP は 1 万 4,257 ドル(2014 年)で、トルコ第 6 位の規模となる。政府の地域別投資インセンティブでは「Region1」に設定されている。

トルコ企業大手では、乳製品、塗料、製紙などのビジネスを展開するヤシャル・ホールディング(Yaşar Holding)<sup>4</sup>を筆頭に、海運のアルカス・ホールディング(Arkas Holding)<sup>5</sup>、自動車部品などのインチ・ホールディング(İnci Holding)<sup>6</sup>が本拠を置いている。市中心部はアルサンジャク(Alsancak)周辺であるが、現在、市北部バイラクル(Bayraklı)を中心に都市開発が進んでいる。

### 2. 貿易動向

イズミル県は、トルコの輸出額の 5.8%、輸入額の 4.4%を占め、輸出額ではイスタンブール、ブルサに次ぐ第 3 位、輸入額でもイスタンブール、アンカラに次いで第 3 位に位置している。貿易相手国としては輸出入ともにドイツのシェアが高く、主な輸出品はニット衣料、一般機械など、輸入品は自動車関連、一般機械などである。地理的条件からも EU 諸国との貿易関係がほとんどを占め、中国、米国がこれに次ぐ。輸出では米国がたばこを中心に、輸入では中国が一般機械、鉄鋼を中心に高いシェアを持つ。

表5. イズミル県の輸出(2016年)

(単位:100万ドル、%)

HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
61	ニット衣類	758	9.1	スペイン	ドイツ	英国	1	ドイツ	1,065	12.7
24	たばこ	740	8.8	米国	サウジアラビア	イラン	2	米国	664	7.9
84	一般機械	656	7.8	ドイツ	オランダ	米国	3	英国	641	7.7
8	果実及びナツ	575	6.9	英国	ドイツ	イタリア	4	イタリア	457	5.5
87	自動車・同部品	501	6.0	ドイツ	英国	フランス	5	スペイン	432	5.2
39	プラスチック・同製品	478	5.7	イタリア	英国	ドイツ	6	オランダ	395	4.7
85	電気機器	364	4.3	英国	フランス	ドイツ	7	フランス	336	4.0
62	非ニット衣類	344	4.1	ドイツ	スペイン	デンマーク	8	ベルギー	222	2.7
48	紙・製紙用パルプ	340	4.1	エジプト	イラン	チュニジア	9	イスラエル	211	2.5
72	鉄鋼	288	3.4	イエメン	ドイツ	クウェート	10	イラン	173	2.1
	合計	8,370	100.0	ドイツ	米国	英国		合計	8,370	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

<sup>4</sup> <http://www.yasar.com.tr/en/>

<sup>5</sup> [http://www.arkas.com.tr/en/home\\_page.html](http://www.arkas.com.tr/en/home_page.html)

<sup>6</sup> <http://www.incipholding.com/en>

表6. イズミル県の輸入(2016年)

(単位:100万ドル、%)

HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
87	自動車・同部品	1,779	20.2	ポーランド	ドイツ	スペイン	1	ドイツ	2,219	25.2
84	一般機械	1,735	19.7	ドイツ	イタリア	中国	2	中国	1,860	21.1
27	鉱物性燃料	1,671	19.0	ロシア	ギリシャ	ブルガリア	3	ロシア	1,355	15.4
39	プラスチック・同製品	1,546	17.6	ドイツ	アゼルバイジャン	サウジアラビア	4	イタリア	1,077	12.2
72	鉄鋼	1,037	11.8	ロシア	中国	オランダ	5	米国	991	11.3
48	紙・製紙用パルプ	848	9.6	スウェーデン	フィンランド	ドイツ	6	ポーランド	909	10.3
24	たばこ	819	9.3	オランダ	米国	ドイツ	7	スペイン	822	9.4
85	電気機器	740	8.4	中国	ドイツ	スペイン	8	オランダ	483	5.5
15	動物性・植物性油脂	556	6.3	マレーシア	ロシア	ボスニア	9	マレーシア	381	4.3
23	食品残留物及びびくず、調製飼料	549	6.2	ウクライナ	米国	ロシア	10	スウェーデン	364	4.1
	合計	8,796	100.0	ドイツ	中国	ロシア		合計	8,796	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

### 3. 産業構造

#### <農業・畜産業>

イズミル県の主な農産物は、綿花、ぶどう、オリーブ、イチジク、たばこ、野菜・果物で、トルコ全体の農産物の3.5%を生産している。GDP比ではトルコ全体の約7%、エーゲ地方の約半分を占める。主な生産地域は、北部ベルガマ(Bergama)、南東部オデミシュ(Ödemiş)、南部トルバル(Torbalı)、ティレ(Tire)などである。トルコの農業は家族経営の小規模農業が主体で、一農家当たりの平均面積は61デカル規模と、欧州の167デカルと比べて集約化は大きく遅れている。同県はさらに小規模で平均37デカルに過ぎない。農業従事者は県の人口の約15%となっている。

生鮮果実の生産では、ケマルパシャ(Kemalpaşa)、バユンドウル(Bayındır)、ベルガマ、生鮮野菜は、オデミシュ、ティレ、バユンドウル、ベルガマ地域が盛んで、いずれの生産量もイズミル県はアンタルヤ、メルスィン県についてトルコ第3位にある。果物ではスルタナ・ぶどう、イチジクが知られ、綿花栽培も盛んである。そのほか、オデミシュのじゃがいも、ベルガマ・コザクの松の実も知られている。また、畜産物生産ではコンヤ、バルケシル県について第3位の規模となっている。

#### <製造業>

イズミル県の製造業は、主要な3大セクターとして、農業・食品(たばこ)、化学・石油化学品、機械機器がある。イズミル港を中心に充実した物流施設が整い始めており、イスタンブール・マルマラ地域に匹敵あるいは代替する地域として、多くのセクターで国内外からの投資誘致に取り組んでいる。特に、バイオ・テクノロジー、ICT、再生可能エネルギー、航空宇宙産業の開発に期待を寄せている。公認工業地帯(OIZ)やフリーゾーン以外にも、東北部ボルノヴァ地区に製造業の集積が見られるが、他県に比べ工業用地は限定的と言える。

企業活動では、イスタンブール工業会議所(ISO)によるトルコ企業ランキングトップ500社(2016年、以下、ISOランキング500社)の中に、イズミル企業は36社、同501~1,000社では40社がランキングしている(ただし、本社機能をイスタンブールなどにおいている企業は含めない)。また、トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した2016年の輸出企業上位1000社のうちイズミル企業は81社が挙げられている。

外資系企業は、現在、2,110社が進出している。エーゲ地方には、ドイツを中心とした欧州企業、米国企業に加え、イラン企業の進出も見られ、同国の製品をトルコで再加工し、付加価値を付けることで、NACE(ヨーロッパの業界標準分類システム)産業コードを変更し、トルコ製品として輸出している。

ソーラーパネルでは 2 つの中国企業が進出しており、韓国のハンファ・ソーラー社による大規模投資も計画されている。

セクター別の主な外資系企業は以下の通り。

- ・ 再生可能エネルギー: Enercon (ドイツ)、TPI Composites (米)
- ・ 情報・通信 (ICT): accenture (アイルランド)、Comptence Call Center (CCC) (オーストラリア)、Ericsson (スウェーデン)、Monitise (英)、IBM (米)
- ・ 航空宇宙: Fokker Elmo (オランダ)、Kale Pratt & Whitney (米・トルコ)、PFW Aerospace (ドイツ)
- ・ 工業機械: Cummins (米)、Delphi (英)、Eldor (イタリア)、Gates (米)、General Motors (米)
- ・ 化学品: SOCAR (アゼルバイジャン)、Akzo Nobel (オランダ)、Kansai Altan (日本・トルコ)
- ・ 食品関連: Dr. Oetker (ドイツ)、Rapunzel (ドイツ)、Tetra Pak (スウェーデン)、Coca Cola (米)
- ・ たばこ: Philip Morris (米・トルコ)
- ・ 衣料品: Hugo Boss (ドイツ)

## 石油化学：

イズミル県の石油化学品の輸出額はトルコ全体の約 25% を占めている。イズミル北部アリアーの工業地域を中心に、コチ財閥傘下のトルコ最大の石油精製会社 **テュプラシュ** (TÜPRAŞ) の精製所、アゼルバイジャンの SOCAR 傘下の石油化学会社 **ペトキム** (PETKİM)、STAR 石油精製所など、約 300 の石油製品、石油化学関連企業がある。アリアーは、こうした石油関連製品の搬出港として地域のハブとなっている。

**トルコ石油精製会社** (TÜPRAŞ) は、1983 年に国営石油精製工場を統合する形で創業し、ガス、LPG、ベースオイル、各種燃料などを生産している。コジャエリ県を中心にイズミル県、クルクカレ県、バトマン県に 4 か所の精製所を持つ。イズミル精製所とイズミット精製所を合わせた年間生産能力は 1,100 万トン。2006 年の民営化でコチ財閥が 51% を買収した (コチ・ホールディングの 51% のシェアのうち 77% がコチ、20% がアイガズ、3% がオペット)。2016 年の ISO ランキング 500 社では長年にわたって首位を維持している。

**SOCAR** 傘下の **ペトキム** は、トルコの石油化学製品の約 25% のマーケットシェアを有する同セクター最大規模の企業。2008 年に **ペトキム** の株式 56.3% を買収した後、2011 年にトルコの **トゥルカス** (Turcas) 社とともに SOCAR トルコ・エゲ石油精製を地域の戦略拠点として立ち上げた。トルコの国内需要は **ペトキム** の生産能力 3.5 トンの約 4 倍の規模とされており、同セクターのポテンシャルは大きい。また、約 60 億ドルの投資により 2018 年に生産開始予定の STAR 石油精製所は、操業開始初年度で 150 億ドルの売り上げが期待されており、SOCAR トルコは **テュプラシュ** に次ぐトルコ第 2 位の製造業企業となる見込み。

**ペトキム** (PETKİM) は、1965 年に国営石油会社 (TPAO) により創業された石油化学会社でアリアーにある。熱可塑性物質 (Thermoplastics)、繊維原材料 (Fiber Raw Materials)、芳香族炭化水素 (Aromatics)、オレフィン (Olefins) など生産している。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 17 位。

**ラヴァゴ石油化学** (RavagoPetrokimya) は、1998 年にトルコに進出したベルギー企業で、傘下に Enplast、Eastchem、Ravago Kimya、Mahalo、Tekpol のプラスチック関係 5 社を持つ。ポリマー (重

合体)原料(EPS、TPE、TPU、EP、シリコン、PUR)を生産しており、トルコ国内マーケットシェアは2位。本社はイスタンブールにあるが、アリアーOIZの工場でも生産している。2016年のISOランキング500社で第132位。

#### **自動車：**

自動車産業分野におけるイズミル県の投資は、工業用地に限界があることもあり、乗用車を生産している企業はなく、BMCが組み立てを行っているのみにとどまる。

**BMC**は1964年に創業し、現在、ボルノヴァでバス、トラック、軍用車両の組み立てのほか、エンジンなどの部品を生産している。BMCのバスはトルコ各県で市バス用として利用されている。2014年に生産が一時停止する事態となったが、カタール資本がシェアの一部を買収し、再建された。2016年のISOランキング500社で第137位。

**CMS JANT**は、1985年に創業された軽合金ホイールメーカー。アルミニウム合金ホイールの生産ではトルコで第1位、欧州で第3位。イズミルのアタテュルクOIZなど3カ所に工場がある。日系主要メーカーをはじめ国内外自動車メーカー22社にホイールを提供している。2016年のISOランキング500社で第163位。

**スタックポール**(Stackpole International)は、2009年にトルコに進出したカナダの自動車部品メーカー。2008年の金融危機の際に、欧州の工場をイズミルFZに移転した。Peugeot/Citroen、Audi、Porsche、Volkswagen、Ford、Hyundai、Opel向けにオイル・ポンプを生産している。2016年のISOランキング500社で第219位。なお、同社は2015年に中国の徳昌電機(ジョンソン・エレクトリック)に買収された。

#### **鉄鋼関連：**

イズミル県における主要鉄鋼会社は以下の2つ。

**イズミル鉄鋼**(İzmir Demir Çelik)は1975年に創業。アリアー製鉄所の年間生産能力は、鋼片(ビレット)132万トン、鉄筋90万トン、セクション・ミル44万トン。同社専用の港湾施設を持つ。2016年のISOランキング500社で第54位。

**エゲ・チェリック**(Ege Çelik)は2001年にアリアーで生産を開始した。年間生産キャパシティは、鉄鋼200万トン、建設用棒鋼120万トン。同社専用の港湾施設を持ち、米国、欧州、中東、東アジアへ輸出している。2016年のISOランキング500社で第278位。

#### **食品・飲料：**

イズミル県における主要食品会社・組合は以下の6つ。

**コカ・コーラ**(Coca Cola içecek)は、1964年にトルコでの生産をイスタンブール工場を開始し、その後1986年にイズミルのオズギョルケイ(Özgörkey)社とのエーゲ・地中海地方の販売契約により、イズミル(ボルノヴァ)に工場を建設した。1996年にアナドル・グループが資本参加し、現在はアナドルが株式の50.3%、オズギョルケイが2.9%を保有する。

**バンヴィト**(Banvit)は1968年創業の鶏肉を専門とする食品加工メーカー。バルケシル、マニサ、イズミルに生産工場がある。イズミルでは、ニワトリ、七面鳥の食肉加工と家禽用飼料を生産している。

東欧、中東、東アジア、中央アジアに輸出している。2016年のISOランキング500社で第52位。

**プナル乳業(Pınar)**は、1973年にヤシヤル・グループによりボルノヴァで創業したトルコ大手の乳製品生産企業で、牛乳、食肉、チーズ、ヨーグルト、バター、飲料水などを生産している。クウェート、バーレーン、UAE、サウジアラビアをはじめとする中東諸国に輸出している。海外にもドイツに欧州市場向けの生産拠点を持つ。また、トルコから海外への飲料水輸出では5割以上を占めているとされる。2016年のISOランキング500社で第87位。

**キュチュクバイ食用油・洗剤会社(Küçükbay Yağ ve Deterjan)**は、1978年に食用油大手のオルキデ・グループ(Orkide Group)によって創業された。同社のヒマワリ油、オリーブオイル、マーガリン生産は国内シェア約2割を占め、中東、アフリカ、東アジア、北米、南米へも輸出している。国連、赤十字社とも調達関連で関係を持っている。2016年のISOランキング500社では第102位。

**ドクター・エトカー(Dr. Oetker)**は、1987年にトルコに進出したドイツの食材メーカー。2001年に合弁先のピヤレ社(Piyale)の全持ち株51%を買収した。南部トルバルの工場では170種類以上の商品を生産している。

**タリシュ(Tariş)**は、1914年に設立された乾燥イチジク、レーズン、綿、オリーブ、オリーブオイルの農業共同組合。

#### **たばこ：**

**フィルサ(Philip Morris Sabancı Sigara A.Ş.)**は、1991年にフィリップモリス75%とサバンジユ財閥25%による投資で創業された国内最大手のタバコメーカー。トルバル工場は1992年に生産を開始し、従業員数は750人。トルコ国内および28カ国に輸出している。2016年のISOランキング500社で第26位。

#### **繊維・衣料品：**

**ヒューゴ・ボス(Hugo Boss)**は、1999年にトルコに進出したドイツのアパレルメーカー。会社によると、イズミル南部の縫製工場は、欧州を含めて同社最大のアパレル工場、スーツ、シャツ、女性用服を生産している。従業員は4,000人以上。2016年のISOランキング500社で第198位。

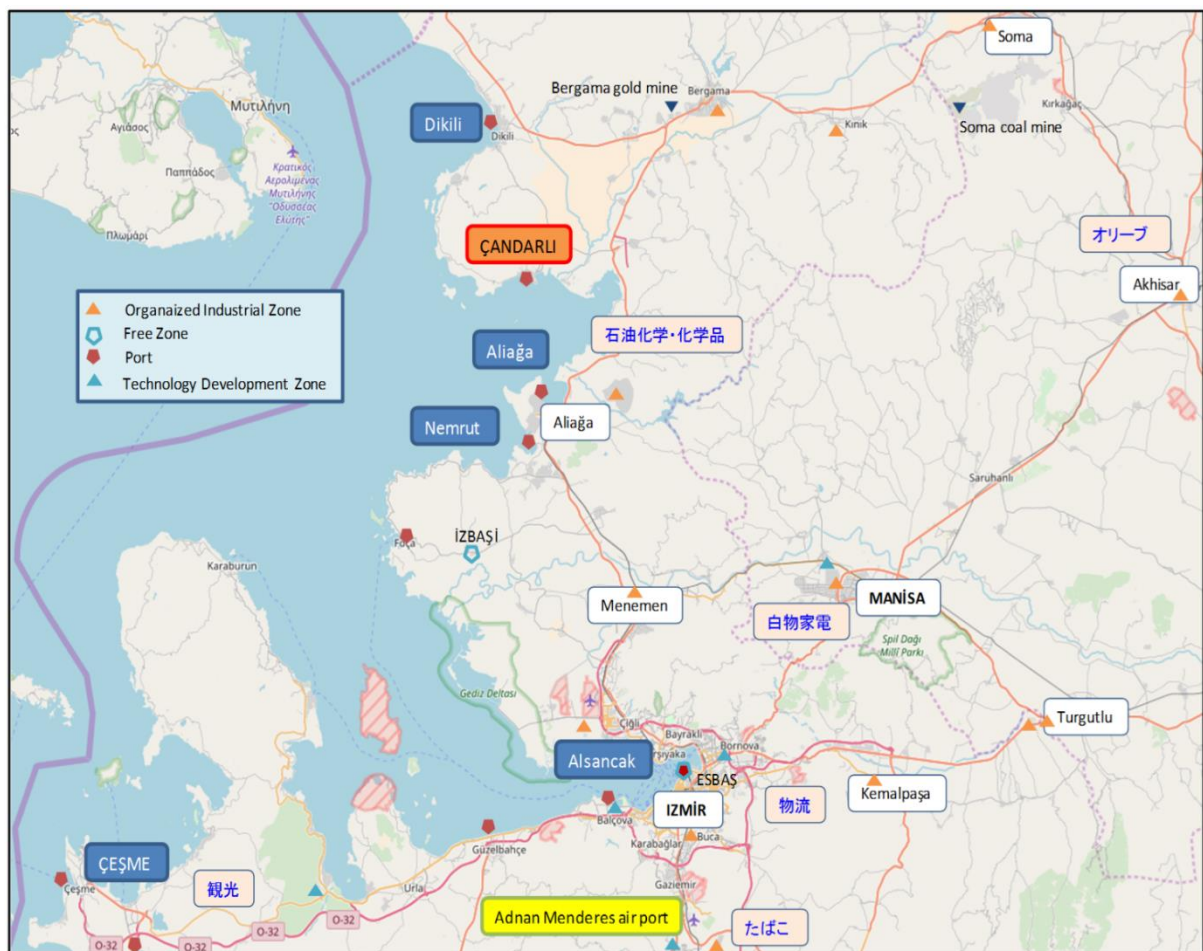
**ユニテックス・テキスタイル(Uniteks Tekstil)**は、1990年創業のニットウェア企業。欧州、英国向けに生産している。アタテュルクOIZ以外にエジプトにも生産工場を持ち、海外にデザインオフィスもある。会社によると、欧州で25人の1人はUniteksが生産したものを着ているという。2016年のISOランキング500社で269位。

#### **観光：**

イズミル県は観光地としても有名で、世界遺産のペルガモン(2014年登録)やエフェソス(2015年登録)といったローマ遺跡やビーチ・リゾートなどの観光資源がエーゲ海沿岸部全体に存在している。また、クシャダス港などにはクルーズ船も寄航し、夏季を中心に年間を通じて観光客で賑わう。外資系のホテルとしては、ヒルトン・ホテル(Hilton)、スイソテル(Swissôtel)、モーベンピック(Mövenpick)などがある。

## 4. 物流インフラ

図 2. インフラ関連地図



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

### <イズミルの海運>

イズミルを含むエーゲ地方の港湾施設は大小含め 22 港あり、年間の総取り扱い能力は 7,242 万トン(2016 年)とトルコ全体の約 17%を占める。地域別ではマルマラ地方、地中海地方に次ぐ第 3 位に位置するが、2016 年の取り扱い能力の増加率では前年比 10.6%増と最大となっている。イズミル県には、アルサンジャク(Alsancak)、アリアー・ネムルト(Aliğa-Nemrut)、チェシメ(Çeşme)、ディキリ(Dikili)の 4 港、12 の民間の港湾施設を擁している。現在建設中のチャンダルル(Çandarlı)港や北エーゲ港が完成すれば、その規模は欧州を含めても有数のものとなるとみられている。

表7. トルコの港湾取扱能力 (単位: 万トン、%)

	2014年	2015年	2016年	構成比	伸び率
マルマラ	15,926	16,081	16,193	37.6	0.7
地中海	12,760	15,307	15,855	36.9	3.6
エーゲ	6,177	6,548	7,242	16.8	10.6
黒海	3,452	3,668	3,730	8.7	1.7
トルコ	38,315	41,604	43,020	100.0	3.4

出所: 海運会議所(IMAK)



## -アルサンジャク (Alsancak) 港<sup>7</sup>

イズミル県最大のアルサンジャク (Alsancak) 港は、国営トルコ鉄道 (TCDD) が保有するトルコ第 2 位のコンテナ港で、年間取り扱い能力は 3,588 隻、100 万 TEU、荷役 1,000 万トンの取扱能力がある。鉄道とハイウェイへも接続しており、工業集積地や空港を約半時間でつなぐ立地条件を有している。一般貨物、ドライ貨物、液体貨物のほか客船も取り扱っており、ギリシャおよびフランスと RORO 船航路がある。

港湾規模は 63 万 5,000 平方メートル、バース 3,400m、水深 11m、ハンドリング能力はコンテナ 100 万 TEU、荷役 1,000 万トンで、固形貨物 (54.9 万トン)、一般・ばら積貨物 (208.6 万トン)、液体貨物 (34.8 万トン)、自動車 (20.0 万トン) などとなっている。また、40 トンのガントリークレーン 5 基を擁する。バルクの取扱いは農産物公社 (TMO) に属し、穀物サイロは 7 万 6,000 トンの貯蔵能力がある。倉庫スペースは、屋外 215,940 平方メートル、屋内 26,978 平方メートル。

運輸・海事・通信省によると、アルサンジャク港の取扱量は、2016 年に前年の 963 万 6,910 トンから 1,049 万 885 トン、コンテナ貨物輸送も同 65 万 6,410 TEU から 68 万 2,057 TEU に増加した。

図 3. アリアー・ネムルト (Aliğa-Nemrut) 港



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

アリアー・ネムルト港は、トルコではマルマラ海のイズミット湾に次ぐ稼働規模を誇り、年間約 4,000 万トンの外国貨物を取り扱っている。2016 年は 4,959 の船舶が入港した。運輸・海事・通信省によると、アリアー・ネムルト港の取扱量は、2016 年に前年の 4,875 万 9,287 トンから 5,054 万 449 トン、コンテナ貨物輸送も同 58 万 250 TEU から 64 万 1,845 TEU に増加した。

<sup>7</sup> <http://www.alsancaklimani.gov.tr/>

アリアー・ネムルト港には、アリアー湾の北西にテュプラシュ(Tüpraş)港、トタル・ガズ(Total Gaz)港、エゲ・ガズ(Ege Gaz)港、アルペット(ALPET)、またネムルト湾を取り囲むようにペトリム(PETLIM)港、ペトル・オフィシ(Petrol Ofisi)港、ミランガス(MİLANGAZ)港、ネムポート(Nemport)港、エゲ・ギュブレ(Ege Gübre)港、IDC(İzmir Demir Çelik)港、バトゥチム(BATIÇİM)港、エゲ・チェリキ(Ege Çelik)港、ハバシュ(HABAŞ)港といった民間の港、ドックが集まっている。コンテナを取り扱う 3 港を含めた主要港の概要は以下の通り:

- ・ネムポート港<sup>8</sup>:敷地面積 10 万平方メートル、バースは 1,550m、最大水深 41m、コンテナ、固形、液体貨物を取り扱う。410×2mのドックを有する。コンテナの取扱能力は 45 万 TEU。
- ・エゲ・ギュブレ(肥料)港<sup>9</sup>:敷地面積 51.3 万平方メートル、バースは 1648m、最大水深 27m、2 埠頭を有し、コンテナ、固形貨物、一般、液体貨物、ドライ・バルクを取り扱う。TCEECE コンテナ・ターミナルの取扱能力は 100 万 TEU。
- ・ペトリム港<sup>10</sup>:敷地面積 9,206 平方メートル、バースは 1,176m、最大水深 12m、コンテナ、固形貨物、一般、液体貨物、ドライ・バルクを取り扱う。3 つのドライカーゴ埠頭、4 つのタンカー埠頭を有する。ソカール傘下のペトキムの港で、エーゲ海最大のコンテナ港である。2016 年の第 2 フェーズの完成によって取扱能力は 7.5 万 TEU から 150 万 TEU に倍増した。
- ・テュプラシュ港:敷地面積 11.5 万平方メートル、バースは 1,648m、最大水深 19m、埠頭は 4 つで液体貨物を中心に 8 つのバースを有する。
- ・IDC(イズミル鉄鋼)港<sup>11</sup>:敷地面積 19.1 万平方メートル、バースは 374m、最大水深 26m、一般貨物、ドライ・バルクを取り扱う。
- ・エゲ・チェリキ港<sup>12</sup>:敷地面積 8.7 万平方メートル、バースは 1,125m、最大水深 35m、一般、ドライ・バルクを取り扱う。7 埠頭を有し、年間取扱能力は 750 万トン。
- ・ハバシュ港<sup>13</sup>:敷地面積 10 万平方メートル、バースは 1,550m、最大水深 41m、一般貨物、ドライ・バルクを取り扱う。2 埠頭を有する。
- ・バトゥチム<sup>14</sup>(バトゥ・アナドル・セメント)港:敷地面積 14.9 万平方メートル、バースは 2,006m、最大水深 32m、一般貨物、バルク貨物、混載貨物を取り扱う。年間取扱能力は、一般貨物 300 万トン、バルク貨物 600 万トン。4 つの埠頭を有する。

### ーチェシュメ(Çeşme)港

チェシュメ港は、1991 年に完成し、総面積 2.69 万平方メートル、バースは 1,276m、水深 12mで、フェリー、RORO、小型フェリーの 3 つの埠頭を有する。トリエステ港と 3 隻のローロー船(2012 年総積載トラック 435 台)でつないでいる。

<sup>8</sup> <http://www.nemport.com.tr/>

<sup>9</sup> <http://www.egegubre.com.tr/liman.html>

<sup>10</sup> <http://www.petlim.com.tr/en/homepage>

<sup>11</sup> <http://www.idcliman.com.tr/en/index.html>

<sup>12</sup> <http://www.egecelik.com.tr/tr/default.asp?pg=liman>

<sup>13</sup> <http://www.habas.com.tr/Category/Alias/seaport-services>

<sup>14</sup> <http://www.batiliman.com.tr/>

## ーディキリ (Dikili) 港<sup>15</sup>

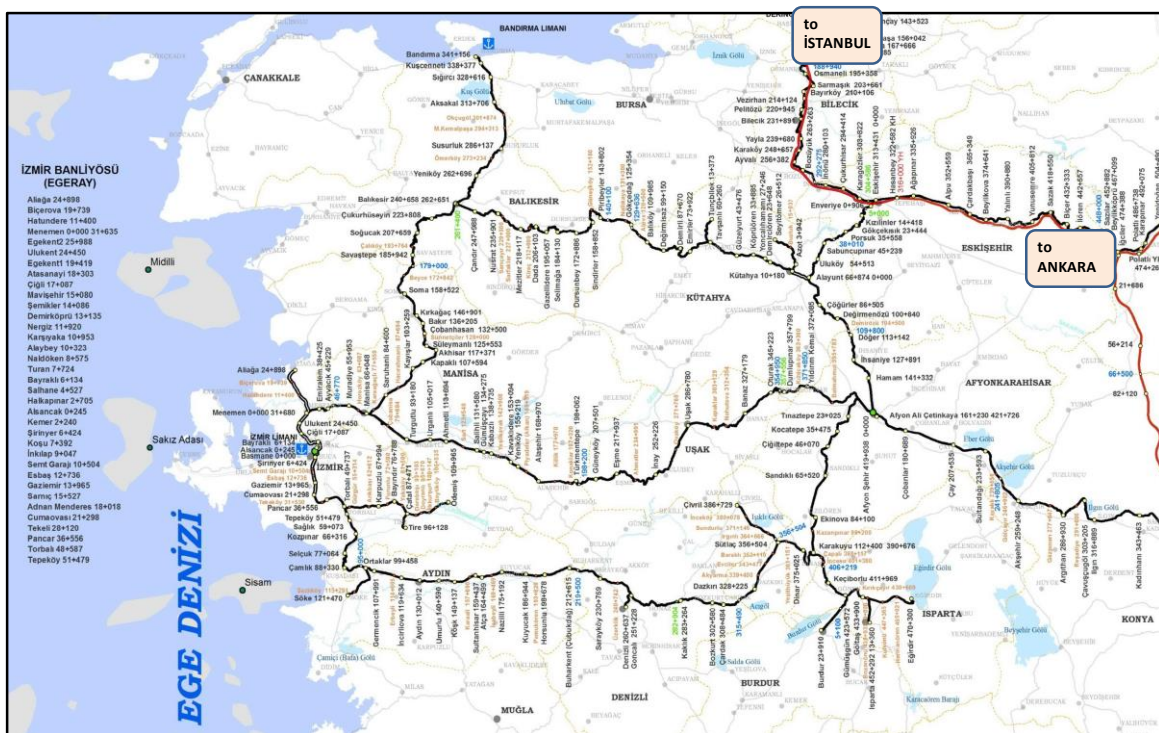
ディキリ港は、総面積 1.276 万平方メートル、バースは南側が 56.9m、水深 7.1～8.6m、北側が 56.1m、水深 7 - 9mで、一般貨物、鉱石、石炭、植物油のバルク貨物を取り扱う。3 つの埠頭、倉庫・保税庫を有する。

## ーチャンダルル (Çandarlı) 港<sup>16</sup>

チャンダルル(北エーゲ)港開発計画(約 10 億ドル)は、欧州と中東、黒海諸国向けの新しい代替ハブ港として、1993 年に計画された。完成後はアルサンジャク港の 4 倍、地中海で最大規模、世界 10 大港の一つとなることが期待されている。計画では、6 つのバースを備え、稼働時は 400 万 TEU、最終的には 1,200 万 TEU を計画している。2014 年に防波堤が完成したが、現在、計画は遅延している。2017 年 11 月にアルスラン運輸・海事・通信相は、世界的なコンテナ市場の縮小を受け、チャンダルル港を複合的なサービスを提供する港湾に計画変更し、後背地に工業特区を置くことを明らかにしている。

## <陸運：鉄道網>

図 4. トルコ国鉄地図



出所: TCDD

## ーイズミル - アンカラ高速鉄道計画

イズミル-アンカラ高速鉄道計画(570 km)は、2007 年に建設案が発表され、13 年にアンカラ市南西部ボラトル-アフヨン・カラヒサル路線の建設が始まった。現在は同路線の約 4 割の建設が完了し

<sup>15</sup> [http://www.portofdikili.com/Default\\_EN.aspx](http://www.portofdikili.com/Default_EN.aspx)

<sup>16</sup> <https://candarlikuzeyegelimani.com/>

ており、2018 年に完工予定である。同計画の最終的な完成によってイズミル - アンカラ間は現行の 15.5 時間から 3 時間 50 分まで短縮され、年間 600 万人の乗客を運ぶことが可能となる。

図 5. イズミル-アンカラ高速鉄道計画地図



出所：TCDD

また、現在、イズミル市の東 30 キロ、アンカラへのルート上のケマルパシヤの OIZ に近接してロジステック・センターの建設が進んでいる。同ロジステック・センターは、トルバル (Torbalı)-ケマルパシヤ (Kemalpaşa)-メネメン (Menemen)-アリアー (Aliağa) およびチャンドルル (Çandarlı) の新港をつなぐ新しい鉄道輸送の要となると期待されている。

## <陸運：道路網>

### ーゲブゼ - オルハンガーズィ・イズミル・ハイウェイ計画

イズミル県にかかわる物流計画で重要な位置を占めるのが「ゲブゼ-オルハンガーズィ・イズミル・ハイウェイ」計画で、関連道 44 キロを含め全長 421 キロ、6 車線の幹線道路からなる。同計画は道路網の建設としてはトルコ初の PPP によるもので、ヌロール、マクヨルなどトルコ 5 社とイタリアのアスタルディのコンソーシアム (NOMAYG JV) による BOT モデルが採用されている。この計画の核となる全長 3 キロのキョルフェズ大橋 (オスマンガーズィ大橋) は、IHI - 伊藤忠主導で 2016 年に開通しており、道路網も 2019 年に完成する予定となっている。この計画により、コジャエリ県のゲブゼ市とイズミル市間の交通は、旧来のイズミット湾の東を迂回する 540 キロ (所要時間 8~10 時間) のルートから約 30% (2~3 時間) 短縮させることになる (キョルフェズ大橋だけで 70 分を 6 分に短縮)。また、同計画の一環としてイズミル湾縦断大橋の計画も進行している。

イズミル市当局は、イズミルのロジステック・ハブとしての可能性を高めるため、輸送インフラの整備を重視しており、2007 年 2 月のバイラクル・トンネル (Bayraklı Tüneli :360m)、15 年 5 月のコナク・トンネル (Konak Tüneli :674m)、17 年 3 月のベルカフヴェ・トンネル (Belkahve Tüneli :671m) と相次いで都市部周辺のトンネルを開通させた。また、イズミルとマニサをつなぐ幹線上に建設された 2 重構造のサブンジュベリ・トンネル (Sabuncubeli Tüneli :600m) も 2018 年 7 月に開通する予定である。

## <空運>

### -アドウナン・メンデレス空港

アドウナン・メンデレス空港の航空便は国内外 103 都市で、海外はドイツを中心に英国、オランダ、ベルギー、ギリシャ、イラン、アゼルバイジャンなど 36 カ国を結ぶ。空港の乗降者取り扱い能力は年間約 2,500 万人で、トルコの航空会社 6 社に加え、ルフトハンザなど 27 の国際航空会社が乗り入れている。

同空港は、トルコ国鉄 (TCDD) がイズミル市内のバスマネ駅に直結しており、バスマネからは北はアリー、南はショケ、さらにアンカラへの急行便 (エスキシェヒル経由)、マルマラ海沿岸バンドゥルマ、南東方面へはデニズリ、コンヤへの直行ルートにアクセスが可能となっている。また、イズミル市営鉄道 (İZBAN) により、空港から北はアリー、南はセルチュクの路線が運行されている。

## 5. 産業インフラ

### <イズミルの公認工業地帯 (OIZ) の特色>

イズミル県には 13 の公認工業地域 (OIZ) 及び 2 カ所の FZ、4 カ所のテクノパークがある。これら OIZ で活動する企業は、主に石油化学、プラスチック、たばこ、食品、機械機器・同部品などが中心となっている。また、高等教育機関として、4 つの国立大学、5 つの私立大学を擁し、ドクズ・エイリュル大学、エゲ大学、イズミル大学の敷地内にはテクノパークがある。

### <FZ 概要と特色>

#### -イズミル・フリーゾーン (İZBAŞ)

İZBAŞ は、皮革産業共同組合による皮革産業フリーゾーン (1997 年設立) が、2011 年にイズミル・フリーゾーンとして再編されたものである。イズミル市の北部に位置し、アルサンジャク港から 40 キロ、アリー港から 26 キロ、建設中のチャンダルル港から 40 キロの立地にある。

2016 年末時点で 172 社が活動しており、そのうち 146 社がトルコ企業、14 社が外資系企業、12 社が外資系とトルコ企業の JV である。総従業員数は 2,342 人。皮革産業以外にも、エネルギー、化学製品、食品、電気機器、自動車関係、プラスチックパイプ、大理石、エスカレーター、エレベーターなどの製造業が入居している。イズミル空港へは地下鉄でアクセス可能。FZ 内で皮革製品専用の税関手続きが可能。

#### -エーゲ・フリーゾーン (ESBAŞ)

ESBAŞ は 1990 年に設立され、敷地規模は 220 ヘクタール。現在拡張工事が行われており、2018 年までに 30 ヘクタールが追加される予定で、展示場の新設も行われた。また、ESBAŞ は、経済省の要請を受け、第 2 の FZ 設営も検討している。フリーゾーン内には 171 社の企業が入居しており、うち 70 社がドイツ企業を中心とした外資系企業となっている。この中には日本ピジョン子会社の米・ランシノーによる投資があり、哺乳瓶を生産している。ESBAŞ 入居企業全体の輸出額 41 億ドルのうち、外資系企業によるものが約 7 割を占めている。

表8. イズミルの公認工業地域(OIZ)、フリーゾーン(FZ)、テクノパーク

OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
1	アリアー	Aliağa	1997	73	石油化学品	Ravago(ベルギー)、Sun Chemical(米・日本)、Micha(トルコ/フランス・亜鉛メッキ鋼)、Lukoil(オランダ・自動車オイル)、Anatolian Tile(カナダ・衛生タイル)	<a href="https://www.alosbi.org.tr/en">https://www.alosbi.org.tr/en</a>
2	アタテュルク	Atatürk	1990	582	プラスチック、化学品、機械部品、金属加工	CMS Jant(ホイール)、Schneider Electric(フランス・配線機器)、Uniteks Textile(繊維)	<a href="http://www.iaosb.org.tr/homepage">http://www.iaosb.org.tr/homepage</a>
3	バーユルドウ	Bağyurdu*	2008	4	機械部品、自動車部品	—	<a href="http://www.bayosb.org/">http://www.bayosb.org/</a>
4	ベルガマ	Bergama	1997	2	再生可能エネルギー発電用部品	LM Wind Power Blades(米・デンマーク) インフラ整備中	<a href="http://bosbi.org.tr/">http://bosbi.org.tr/</a>
5	ブジャ・エーゲ	Buca Ege	2002	74	繊維・衣料品に特化	—	<a href="http://www.begosb.org.tr/?LANG=EN">http://www.begosb.org.tr/?LANG=EN</a>
6	ケマルパシャ	Kemalpaşa	1993	398	機械、自動車、金属、食品	Pinar(乳製品)、Kansai Altan(日本/トルコ・塗料)、Akdeniz Kimya(化学品)、Ege Seramik(セラミック)、Ve-Ge(テープ)	<a href="http://www.kosbi.org.tr/anasayfa">http://www.kosbi.org.tr/anasayfa</a>
7	クヌク	Kınık	1995	13	鉄鋼	—	<a href="http://www.kinikosb.org.tr/">http://www.kinikosb.org.tr/</a>
8	メネメン	Menemen	2004	—	プラスチックに特化	—	<a href="http://www.impiosb.org.tr/">http://www.impiosb.org.tr/</a>
9	オデミシュ	Ödemiş	—	—	食品・飲料	建設中	<a href="http://www.odemisb.org.tr/">http://www.odemisb.org.tr/</a>
10	パンジャル	Pancar	2002	26	機械部品、プラスチック	—	<a href="http://www.iposb.com.tr/">http://www.iposb.com.tr/</a>
11	ITOB テケリ	ITOB(Tekeli)	2006	167	プラスチック、化学品、機械部品、食品に関わるテクノパーク併設	Migros(スーパーマーケット用食肉加工)、Turkcell(通信)、Efe Rakı(アルコール飲料)	<a href="http://www.itob.org.tr/Tr/">http://www.itob.org.tr/Tr/</a>
12	ティレ	Tire	1993	46	食品・飲料、たばこ、自動車関係	Krone(ドイツ・農機)、KT&G(韓国・たばこ)、Sütas(乳製品)	<a href="http://www.tosbi.org.tr/">http://www.tosbi.org.tr/</a>
13	トルバル	Torbalı	2004	1	機械部品、プラスチック、食品	建設中	<a href="http://www.torbaliosb.org.tr/#">http://www.torbaliosb.org.tr/#</a>
FZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
14	エゲ	ESBAŞ	1989	170	航空宇宙産業、精度測定装置、家具、テキスタイル、食品加工	Hugo Boss(ドイツ・テキスタイル)、Delphi Automotive(米国・自動車)、Akzo Nobel(オランダ・製薬)、CMS(自動車)、Fokker Elmo(オランダ・航空宇宙産業)	<a href="http://www.esbas.com.tr/en">http://www.esbas.com.tr/en</a>
15	イズミル	İZBAŞ	1988	172	革製品、エネルギー、食品、自動車、プラスチック、電気機器	TPI Composites(米国・エネルギー)、Loher(エスカレーター・エレベーター)、Sevimli Deri(革製品)	<a href="http://www.idesbas.com/eng/">http://www.idesbas.com/eng/</a>
テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
16	ビリムパーク	İzmir Bilimpark	2012		R&D、ソフトウェア開発	—	<a href="http://www.izmirbilimpark.com.tr/">http://www.izmirbilimpark.com.tr/</a>
17	テクノパーク	Teknopark İzmir	2002	157	R&D、ソフトウェア開発、バイオテック、電気機器、医療	—	<a href="http://teknoparkizmir.com.tr/homepage">http://teknoparkizmir.com.tr/homepage</a>
18	デパーク	DEPARK (Dokuz Eylül Üniversitesi)	2013	125	ソフトウェア開発、IoT、テキスタイル、ナノテック、医療機器、バイオテック	—	<a href="http://www.depark.com/">http://www.depark.com/</a>
19	エゲ・テクノパーク	Ege Üniversitesi Teknopark	2014	68	ソフトウェア開発、電気機械、医療、バイオテック、器械	—	<a href="http://www.teknoparkege.com/">http://www.teknoparkege.com/</a>

\*国名がない場合はトルコ企業

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

### III. 家電産業の集積地～マニサ (MANISA)

#### 1. マニサ県の概要

マニサ県は人口 139 万 6,945 人を擁するトルコ第 14 位の県で、エーゲ地方ではイズミル県に次ぐ。一人当たりの GDP は 1 万 1,112 ドル (2014 年) で、トルコ第 18 位。マニサ県は政府の地域別投資インセンティブでは「Region3」に設定されている。

マニサは、古代マグネシアの後身で、スピロス山 (Spil Dağı) の北麓にあることから、ローマ人によってスピロスのマグネシア (Magnesia ad Sipylum) として知られていた。諸説あるもののマグネシアの石 (マグネット:磁石) の起源とも言われる。ヘレニズム時代には東南約 65 キロのサルデイスに代わってリディア地方の中心となり、紀元前 190 年には、ローマのスキピオ・アジアティクスが、セレウコス朝シリアのアンティオコス 3 世の軍を大破、壊滅させた場所としても有名である。その後も、ローマ・ビザンティン支配下においても重要な都市であり続け、トルコ・イスラーム勢力のもとではサルハン侯国の首都、オスマン時代は皇子の赴任地のひとつとして栄えた。征服者メフメト 2 世やスレイマン大帝もマニサ知事から帝位に進んだことが知られている。

肥沃なゲディズ盆地の中心にあるマニサ県は、伝統的にぶどう、オリーブ、野菜などの農業が産業の中心となっており、織物、皮革製品、家具、鋳業などの分野でも知られている。また、イズミル県との経済的つながりが強く、毎日学生やビジネスマンなど約 5 万人がイズミル県からマニサ県に通学、通勤している。マニサ県は、2016 年にトルコの輸出額の 1.3% を占め国内では第 9 位、輸入額は 1.4% で同第 7 位、貿易全体では同第 8 位となる。

#### 2. 貿易動向

輸出はドイツ、英国を中心に EU 向けがほとんどを占め、主要輸出品目は一般機械、果実・ナッツ、自動車関連製品などとなっている。輸入は、電気機器、一般機械、プラスチック関連の製造業向け中間財が多く、輸入先は中国を最大に、韓国、ドイツ、ポーランドが中心となっている。

表9. マニサ県の輸出(2016年)

表9. マニサ県の輸出(2016年)							(単位: 100万ドル, %)			
HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
84	一般機械	380	20.3	ドイツ	英国	イタリア	1	ドイツ	382	20.4
8	果実及びナッツ	337	18.0	ドイツ	英国	オランダ	2	英国	195	10.4
87	自動車・同部品	335	17.9	ドイツ	英国	スペイン	3	フランス	130	7.0
85	電気機器	219	11.7	フランス	イラン	UAE	4	イタリア	128	6.8
39	プラスチック・同製品	137	7.3	イタリア	オランダ	フランス	5	スペイン	84	4.5
20	野菜、果実、ナッツの調製品	96	5.1	ドイツ	イラク	スイス	6	オランダ	77	4.1
73	鉄鋼製品	74	3.9	英国	ドイツ	イタリア	7	イラン	60	3.2
15	動物性・植物性油脂	56	3.0	シリア	中国	アフガニスタン	8	米国	54	2.9
68	石材、セメントなどの製品	52	2.8	米国	ドイツ	イタリア	9	ベルギー	48	2.6
48	紙・製紙用パルプ	28	1.5	イラン	ギリシャ	ドイツ	10	ロシア	46	2.4
合計		1,874	100.0	ドイツ	英国	フランス	合計		1,874	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

表10. マニサ県の輸入(2016年)

(単位:100万ドル、%)

HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
85	電気機器	1,330	49.2	中国	韓国	ポーランド	1	中国	648	24.0
84	一般機械	319	11.8	ドイツ	イタリア	中国	2	韓国	355	13.1
39	プラスチック・同製品	234	8.6	インド	韓国	サウジアラビア	3	ドイツ	213	7.9
76	アルミニウム・同製品	141	5.2	UAE	ドイツ	ロシア	4	ポーランド	173	6.4
72	鉄鋼	113	4.2	フランス	ルーマニア	イタリア	5	イタリア	163	6.0
87	自動車・同部品	80	3.0	インド	中国	エーゲフリーゾーン	6	台湾	161	5.9
15	動物性・植物性油脂	77	2.8	ロシア	ハンガリー	スウェーデン	7	フランス	142	5.3
90	精密機器・医療用機器・同部品	75	2.8	中国	台湾	ポーランド	8	ロシア	128	4.7
78	鉛・同製品	48	1.8	ブルガリア	ロシア	英国	9	インド	102	3.8
12	食品残留物及びびくず、調製飼料	35	1.3	モルドバ	ブルガリア	ロシア	10	UAE	56	2.1
	合計	2,702	100.0	中国	韓国	ドイツ		合計	2,702	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

### 3. 産業構造

#### <農業・畜産業>

マニサ県はトルコ最大のブドウ栽培面積(7万5,401ヘクタール)、オリーブでは国内第4位のオリーブ栽培面積(9万1,604ヘクタール)を擁し、国産ブドウの約8割、未加工オリーブの約8割が生産されている。

2013年の農業総面積は50万1,056ヘクタールで、このうち31万0,263ヘクタールが耕地面積。同年のデータによれば、種無しぶどう、タバコの生産ではトルコ最大である。この他、オリーブおよび搾油用オリーブ、オリーブ油、トマト(トマトペースト用)、キュウリ(ピクルス用)、ゴマ、ブロッコリー、タイム、ゴマ、サクランボ、イチゴ、メロン、トウモロコシ、ハウレンソウ、ピーマン、栗などが生産される。また、牛肉、鶏卵、牛乳、乳製品などの畜産業も活発である。

#### <製造業>

マニサ県はイズミルの港湾を繋ぐ道路網、鉄道を中心に物流面でも有利な位置付けにあり、近年、多くの産業セクターで国内外からの投資を集めている。マニサ県の製造業は、特にマニサ工業地域(Manisa OIZ)に集積する家電関連産業に象徴され、最大の雇用創出部門となっている。特にゾルル財閥系のヴェステルは、同OIZに「ヴェステル・シティー」ばれる大規模工場を有しており、周辺にはサプライヤーも集積している。このほか、ケーブル、プレス加工などサプライヤーが揃っていることもあることから自動車部品、金属製品、プラスチックなどの産業育成計画もある。また、食品加工業においても原料となる農産品の調達が容易であることから、廉価に加工できると注目されている。

企業活動では、2016年のISOランキング500社でマニサ企業は9社(501~1,000社では7社)がランクインしている(ヴェステルなど本社機能をイスタンブールなどにおいている企業は含めない)。また、トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した2016年の輸出企業上位1,000社にはマニサ県企業が22社入っている。トルコ国内で生産されるテレビの65%はマニサで組み立てられたとされ、冷蔵庫などの白物家電をはじめ、ガス給湯・暖房複合機、空調機器、レンジなどの生産も盛んとなっている。輸出額、外資系企業数ではトルコで第9位に位置している。

#### 空調・家電:

家電大手のヴェステル(Vestel)は、1984年に創業された家電大手で、1994年にゾルル財閥傘下に入る。マニサ工業地域(MOSB)の「ヴェステル・シティー」と呼ばれる一大製造拠点に生産を集積している。同社は国内外に関連企業18社を擁し、LCDテレビ、白物家電、空調機器などを製造して



いる。世界 154 カ国へ輸出しており、19 年間連続で電気製品の輸出額でトルコ第1位。従業員数は約1万 6,000 人で、このうち R&D 部門には約 1,600 人が従事している。2016 年の ISO ランキング 500 社でヴェステル・エレクトロニクスは第 12 位、ヴェステル白物家電は第 24 位である。アルチェリッキ(コチ財閥)とともに 2 大家電企業の一つである。

なお、マニサにはこのほかにも外資系のインデシット(Indesit)、ボッシュ(Bosch)が同じ工業地域内で生産活動を行っており、2018 年初に三菱電機が家庭用空調機器の生産を開始した。

**ボッシュ・サーモテック(Bosch Termoteknik)**は、1991 年にトルコのエルギンカン・ホールディング(Elginkan Holding)との合弁(1991 - 98 年)で創業された。マニサ OIZ の工場ではヒーター・同部品を生産しており、R&D センターもある。マニサ OIZ で生産した製品は、国内だけでなく、欧州、コーカサス、中東、南米、東アジアなど 41 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 81 位。

**インデシット(Indesit)**は、1990 年からマニサ工場では冷蔵庫を生産しており、欧州、中東、中央アジアへ輸出している。イタリアのファブリアーノに本社を置くが、2014 年にワールプール(米)に買収された。マニサ OIZ の工場の年間生産能力は 150 万台である。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 96 位。

**クリマサン(Klimasan)**は、1915 年に創業されたトルコの商業用冷蔵庫、冷凍庫メーカーで、マニサ OIZ に工場を持つ。2008 年にブラジルの Metalfrío に買収された。従業員数は 1,000 人以上で、年間生産能力は 55 万台である。アフリカ、中東、欧州、米国など 79 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 418 位。

**コンヴェヨール(Konveyör)**は、1979 年創業の冷蔵、冷凍用のチューブ・パイプなどの部品メーカーである。トルコではマニサ OIZ を含め 5 工場を擁し、従業員数は約 1,700 人。Liebherr、Vestel、Electrolux、Beko など多くの家電関連企業へ冷蔵庫、冷凍庫向けの部品を提供している。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 493 位。

#### **一般機械：**

**エマス機械工業(Emas Makina Sanayi)**は、エルギンカン・ホールディングの子会社の一つで、マニサ OIZ の工場では E. C. A ブランドのヒーター、ボイラーを生産している。エルギンカンの子会社 Eleks 経由で世界 60 カ国以上に輸出している。2016 年の ISO ランキング 1000 社で第 522 位。

#### **自動車関連：**

**スタンダード・プロフィール(Standard Profil)**は、1977 年にイスタンブールで創業された自動車用シーリング材メーカーである。マニサ OIZ の工場以外にも国内にはデュズジェ、海外にはブルガリア、中国、南アフリカ、スペイン、モロッコ、メキシコに生産施設を持つ。マニサ工場では、熱可塑性エラストマー(TPV)、エチレンプロピレンゴム (EPDM)の加工を行っている。従業員数は 1,922 人で、ドイツ、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、フランス、南アフリカ、インド、メキシコ、英国、スペイン、スウェーデン、コロンビア、ハンガリー、ポルトガル、ロシア、スロバキアへ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 277 位。

**マクシオン・インヂ・ホイール**(Maxion İnci Jant Sanayi)は、1992年創業のホイールメーカーで、トルコのインヂ・ホールディングとドイツ、ブラジル企業との合弁企業である。トルコ国内の乗用車用ホイールで75%と最大シェアを誇る。同社は、主要日系自動車メーカーをはじめ、Alcar、Audi、Dacia、Daimler、Ford、GM、Hyundai Assan、Karsan、Land Rover、Otto-Just、Renault、Seat、Volkswagen にホイールを提供している。マニサ OIZ の2つの工場では年間500万個のホイール生産能力を有する。2016年のISOランキング500社で第129位。

#### **食品加工：**

**ヨンジャ・グダ**(Yonca Gıda)は、1981年にマニサで創業した食品企業である。マニサ OIZ 工場でヒマワリ油、オリーブオイル、コーン油、トマトペースト・ケチャップ、マヨネーズ、ピクルス、パスタ・サラダ用ソースを生産している。欧州、北米、中東、アフリカ、中央アジア、カリブ海諸国、東アジアに輸出しており、欧州の大手企業のOEM生産も行っている。2016年のISOランキング500社で第263位。

**フェレロ**(Ferrero)は、2013年に3億リラ(当時約1億4,250万ドル)の投資でマニサに進出したイタリアの食品大手である。マニサ OIZ 工場でヌテッラ(Nutella)と他のチョコレートを生産しており、今後、北アフリカと中東へも輸出する計画。加工用ヘーゼルナッツの8割をトルコから調達しており、トルコ国内のヘーゼルナッツ流通量の約3割を購入していると言われる。なお同社は、トルコのヘーゼルナッツ加工の最大手、オルタン食品(Oltan Gıda)を2014年に買収している。

ペプシコ傘下の**フリト・レー**(Frito Lay)は、マニサ OIZ でポテト・コーンチップスの工場を建設中である。投資額は約1億5,000万ドル。国内生産の25%~30%をマニサ OIZ で行う予定。

**ラ・ロレーヌ**(La Lorraine)は、2015年にトルコに進出したベルギーの製パンメーカー。中東向け輸出も視野に、マニサに1億リラを投じて工場を建設。現在、イスタンブール、イズミル、ブルサ、アンカラ、アンタルヤ各県を中心にトルコ国内のスーパーマーケット向けにパン、クロワッサン、チーズケーキなどを販売している。

#### **基礎金属・金属製品：**

**エルデミル製鋼**(Erdemir Çelik)は、2001年にエルデミル鉄鋼傘下に設立されたトルコの金属加工会社。トルコ4カ所に工場を持ち、マニサ OIZ には年間15万トンの生産能力を持つ冷間圧延スリッティングラインがある。自動車、自動車部品、白物家電産業など向けに金属加工を行っている。2016年のISOランキング500社で第86位。

**コンポネンタ**(Componenta Dökümcülük)は、1973年にフィンランドのComponentaとコチ財閥の合弁で創業された鋳造部品メーカーで、2006年にコチ財閥の持ち株を買収し、独資となる。マニサ OIZ で、農機、機械、建設、鋳業、トラック向けの鋳造部品を提供している。2016年のISOランキング500社で第160位。

#### **鉱業：**

マニサ県のソマは、石炭資源(褐炭)知られ、多くの炭鉱労働者が従事している。2014年には301人の犠牲者を出した炭鉱事故が起きている。同地の火力発電所(Soma Kolin Kayrakaltı)は510MW規模の発電能力を有し、石炭の他、大理石、カオリナイト、長石、水銀、セメント原料、石英、ド

ロマイト、アンチモン、ゼオライト、硫黄、パーライト、雲母、銅、鉛、亜鉛も産出する。

イムバト鉱業(İmbat Madencilik)は、2002年にイズミルで創業した企業で、マニサ県ソマを拠点とする炭鉱会社。2016年のISOランキング500社で第135位。

#### 観光：

マニサ県は、キリスト教の聖地観光で有名である。紀元前に歴史上初めて硬貨を鋳造したと伝わるリディアの首都だったサルデスは、古代の遺跡だけでなく、初期キリスト教の黙示録7大教会のひとつが置かれたことでも知られている。また、同県には、7大教会のうち、ティアティラ(アクヒサル)、フィラデルフィア(アラシェヒル)の教会跡地がある。また、マニサ市から約5キロ南に広がるスピル山国立公園でも観光開発が進んでいる。

## 4. 産業インフラ

### <物流環境>

マニサ県は、エーゲ地方とイスタンブール、中央アナトリアを結ぶ結節点にある。イスタンブールは陸路で432km、アンカラとはウシャク経由で563kmの距離にあり、イズミル港までは37kmと近接している。また、イズミル-イスタンブール・ハイウェイ(約3.5時間)、イズミル-アンカラ・ハイウェイなどの交通網が通る拠点の一つに位置している。陸送ではマニサからバンドウルマ(Bandırma)港を経由してテキルダグ(Tekirdağ)、ブルガリア国境のカプクレ(Kapıkule)からルーマニア、ハンガリー、オーストリア、ドイツに輸送するルートなどがある。

マニサの東195キロ、アンカラへのルート上のウシャクにトルコ国鉄(TCDD)のロジスティクスセンターがある。敷地面積は14万平方メートルで、年間24.6万トンの積み下ろし処理能力を有する。主要取扱品目はコンテナ、セラミック、大理石、プラスチック原料、機械設備、食品などである。

### <マニサの公認工業地域(OIZ)>

マニサ管区(TR33)には27の公認工業地域(OIZ)があり、うち17カ所が稼働している。

マニサ工業地域(MOSB)は、トルコ2番目のOSBとして1968年に設置された。OIZとしては敷地規模ではトルコ第14位、輸出額では710万ドルと第1位、外資系企業数でも首位にある。ロジスティクスセンターとしてイズミルのアルサンジャク、アリアーの主要港にも直結しており、アクセス面でも高く評価されている。MOSBでは現在、第6フェーズの整備が始まっており、2019年を目処にR&Dセンターを設置し、ハイテク企業の参入に期待している。

マニサの外資系企業は51社で、多くはマニサ工業地域(MOSB)に集中している。MOSBには米国のWhirlpool/Indesit(電気機器)、Ball Beverage/Rexam(金属加工)、Bundy Refrigeration(電気機器)、ドイツのBosch Termotechnik(金属加工、機械)、Mubea(自動車)、Viessmann(金属加工)、Webasto(機械)、HM Isitma(金属加工)、フランスのDaussan Refracter(非金属製品)、Schneider Electric(電気機器)、Air Liquide(化学品)、イタリアのPolidoro(機械)、Ilpea(ゴム、プラスチック)、Sabaf(電気機器)、Çimbeton(非金属製品)、Acro TK(電気機器)、Bitron(電気機器)、Ferrero Çikolata(食品)、オランダのFrito Lay(食品)、Accell(物流)、ベルギーのLa Lorraine(食品)、フィンランドのComponenta(金属)、英国の

Imperial Tobacco (たばこ)、スイスの Sanpan(金属加工)、ブラジルの Klimasan(機械)、インドの TAFE(トラクター)、日本の三菱電機などとなっている。

このほかの OIZ としては、トルグトゥル、アンカラ国道沿いにサルヒリ、イスタンブール国道沿いにアクヒサル、ソマ(計画中)がある。ソマの OIZ は、新設予定のチャンダルル港とのアクセスを重視しており、アクヒサルにはオリーブ専門 OIZ の計画ともある。

図 6. マニサ、ウシャク、アフオンカラヒサル、キュタヒヤにおける公認工業地域



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

表11. マニサ、ウシャク、アフヨンカラヒサル、キュタヒヤの公認工業地域(OIZ)、テクノパーク

マニサOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
1	マニサ	Manisa	1964	203	金属加工、プラスチック、電気部品、空調機、食品	Bosch Thermotechnik(ドイツ)、Schneider Electric(フランス)、Ferrero(イタリア)、Maxion Jantas(ブラジル)、三菱電機(日本)、東洋インキ(日本)、インジGSユアサ(日本出資)、サルテン(日本出資)	http://www.mosb.org.tr/en/
2	トゥルグトゥル	Turgutlu	1996	30/53	セラミック、塗料、リフト機械、化学製品、その他	Bonfiglioli(イタリア)、Austrotherm(オーストリア)、Seramiksan、DYO、Onder Lift	http://www.turgutluosb.org.tr/
3	アクヒサル	Akhisar	1991	25/66	食品加工、オーリーブ関係、空調機、プラスチック、化学製品	Baerlocher(ドイツ)、Keskinoglu、Sanica、Doramax(イタリア)	http://www.akhisarosb.org.tr/
4	サリヒリ	Salihli	1998	24/49	食品、飲料、餌料、牛乳、包装	Lacroix(フランス)、Zumdieck(ドイツ)、Allco(ロシア)、Norm Group、Lider Pet Foods	http://www.salihliosb.org.tr/
5	クラ皮革専用	Kula Deri Ihtisas	1998	-	-	未稼働	-
6	アクヒサル・オーリーブ/オーブオイル	Akhisar Zeytin ve Zeytinyagi	2012	-	-	未稼働	-
7	ソマ	Soma	2013	-	-	未稼働	-
マニサ・テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
8	マニサ・テクノセント	Manisa Teknokent (Celal Bayar Üniversitesi)	2013	63	ソフトウェアの開発、電気機器、機械	Vestel	http://teknokent.cbu.edu.tr/
ウシャクOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
9	ウシャク	Usak	1986	178/285	繊維、セラミック、食品、機械	Muratbey(食品)、Balta(じゅうたん:ベルギー)、SMS Konfeksiyon(ホームテキスタイル)、Rocamar Marble(スペイン)、Deep Blue(英)	http://www.uosb.org.tr/
10	ウシャク皮革	Usak Deri (Karma)	1989	189/219	繊維、皮革		http://www.ukosb.org.tr/
11	カラハリ	Karahalli	2005	4/9	繊維、食品、家具、大理石		http://www.karahaliosb.org.tr/index.aspx
アフヨンカラヒサルOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
12	アフヨンカラヒサル	Afyonkarahisar	1984	278/303	大理石、食品、食肉、包装、機械		http://www.afyonosb.org.tr/
13	アフヨンカラヒサル第2(シナンパシヤ)	Afyonkarahisar Merkez II.	2008	-	-	未稼働	-
14	ダズクル繊維・衣料品	Dazkirin Dokuma ve Konfeksiyon	1995	-	-	未稼働	-
15	ボルヴァディン	Bolvadin	2000	-	農業、繊維、食品、機械、化学製品	未稼働	-
16	エミルダ	Emirdag	2000	2/7	倉庫、装飾用石材、食肉加工、キノコ栽培		http://www.emirdagosb.org.tr/
17	ディナル	Dinar	2001	0/3	-	未稼働	http://www.dinarosb.org.tr/
18	シュウト	Suhut	2007	-	-	未稼働	http://www.suhutosb.org.tr
19	サンドゥクル	Sandikli	1997	1/5	家具、肥料		-
20	イスジェヒサル大理石専用	Iscehisar Mermer Ihtisas	1997	5/11	大理石		http://www.iscehisarosb.org.tr/
アフヨンカラヒサル・テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
21	ザフェル・テクノパーク	Zafer Teknopark	2015	14	ソフトウェア開発		http://zaferteknopark.com.tr/
キュタヒヤOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
22	キュタヒヤ	Kütahya	1973	88	セラミック・ガラス、大理石、繊維、食品、化学、自動車部品、金属加工、プラスチック、木材	Asmaş(Minteq:米)、Orcia(Faurecia:フランスJV)、Wamerur Asia(イタリア)	http://www.kutahyaosb.org.tr/
23	キュタヒヤ第2	Kütahya Merkez II.	2006	12	鉱業、自動車部品、機械、セラミック、製紙、家具		http://www.kutahya2osb.com/site/
24	ゲディズ	Gediz	1998	20	食品、電気機器、建設、機械、木材、家具		http://www.gedizosb.org.tr/
25	シマヴ	Simav	1997	-	グリーンハウス(地熱利用)	未稼働	-
26	タヴサンリ	Tavsanlı	2001	20	自動車部品、太陽光エネルギー、機械、化学洗剤、食品		http://tavsanliosb.org/
27	アルトウンタシュ・ザフェル	Altıntaş Zafer	2017	-	-	未稼働	http://www.altintaszaferosb.com.tr/
キュタフヤ・テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
28	ドゥムルプナル大学・テクノセント	Dumlupınar Üniversitesi Teknokent				未稼働	-

\*企業数:稼働企業数/登録企業数。主な企業:国名がない場合はトルコ企業。  
出所:ジェトロイスタンブール事務所作成

## IV. ホームテキスタイルの伝統～デニズリ (DENIZLI)

### 1. デニズリ県の概要

デニズリ県は、人口 100 万 5,687 人を擁し、トルコ第 21 位、一人当たりの GDP は 1 万 1,327 ドル (2014 年) でトルコ第 14 位である。政府の地域別投資インセンティブでは「Region2」に設定されている。

デニズリ県は、2016 年にトルコの輸出額では 1.7% を占め第 7 位、輸入額では 0.8% で第 11 位、貿易額全体ではトルコ第 10 位に位置している。トルコ輸出業者会議 (TIM) が発表した 2016 年の輸出企業上位 1,000 社のうちデニズリからは 27 社が入っている。デニズリ県は約 47% が山地で、約 25% が高原、平野部は 30% 程度に過ぎない。中央部にはアナトリア西部の最高峰ホナズ山 (標高 2,571m)、その西側にはババダア山 (同 2,308m) がそびえている。

デニズリの起源は、紀元前 261/245 年頃とされるが、その古代史は約 8 キロ北にあったラオディキアの歴史との間で混乱が見られる。その背景には、ヘレニズムの都市、ラオディキアが地震やイスラームおよびモンゴルの侵入によって荒廃し、放棄された際にその住民が移り住んだことにある。その際に都市名もラーズィク、ラディクと訛りながらも引き継がれた。1332 年にラーズィクを訪問したイブン・バットウータは、町がルーム (ギリシア系) の女性によって織られる「ラーズィキー」として知られる特産の織物で有名であると記している。ラーズィクの名称は 15 世紀頃までに歴史に埋もれ、トングズル (Tonguzlu)、テングズルグ (Tenguzlug) などと呼ばれるようになる。これは中世のカスピ海北部で遊牧していたテンギズ (Tengiz「海」) 部族が語源で、この部族がおそらく 13 世紀頃にすでに現在のデニズリに移住し、ラーズィクはその部族の町と呼ばれるようになったのだろうとされている。テンギズの現代トルコ語形がデニズである。デニズリは、現在でも繊維産業の中心地として栄えている。

### 2. 貿易動向

デニズリの輸出品は、繊維・衣料品が全体の約 45% を占め、鉄鋼、電気機器、銅製品などがこれに次ぐ。おもな輸出相手国はドイツ、英国、米国など欧米向けが大宗を占める。

表12. デニズリ県の輸出(2016年) (単位:100万ドル、%)

HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
63	紡織用繊維	601	25.0	ドイツ	米国	オランダ	1	ドイツ	267	11.1
72	鉄鋼	253	10.5	モロッコ	サウジアラビア	エジプト	2	英国	240	10.0
85	電気機器	246	10.2	英国	イスラエル	イラク	3	米国	198	8.2
74	銅・同製品	220	9.2	イタリア	ルーマニア	英国	4	イタリア	174	7.2
61	ニット衣類	175	7.3	英国	デンマーク	ドイツ	5	フランス	119	5.0
62	非ニット衣類	153	6.4	ドイツ	米国	イタリア	6	イスラエル	104	4.3
68	石材、セメントなどの製品	148	6.2	米国	フランス	オーストラリア	7	オランダ	98	4.1
52	綿・綿織物	131	5.5	イタリア	ドイツ	スペイン	8	ルーマニア	70	2.9
25	塩、硫黄、土石類、プラスター、石灰、セメント	57	2.4	中国	インド	台湾	9	スペイン	54	2.2
60	メリヤス編物、クロセ編物	54	2.2	オランダ	ドイツ	チュニジア	10	オーストリア	54	2.2
	合計	2,403	100.0	ドイツ	英国	米国	合計	2,403	100.0	

出所:トルコ統計機構(TUIK)

輸入品は、主幹産業である銅製品、繊維関連の原料が主力で、半分近くがロシア、中央アジア諸国からの調達となっている。

表13. デニズリ県の輸入(2016年)

(単位:100万ドル、%)

HS	品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
74	銅・同製品	818	49.1	カザフスタン	ロシア	ウズベキスタン	1	ロシア	285	17.1
52	綿・綿織物	238	14.3	トルクメニスタン	米国	ベトナム	2	カザフスタン	275	16.5
72	鉄鋼	182	10.9	ウクライナ	ロシア	中国	3	ウズベキスタン	145	8.7
84	一般機械	91	5.5	ドイツ	イタリア	ベルギー	4	中国	132	7.9
85	電気機器	68	4.1	中国	ドイツ	ウズベキスタン	5	トルクメニスタン	83	5.0
55	人造繊維の短繊維・同織物	31	1.9	エジプト	日本	中国	6	ウクライナ	81	4.9
54	人造繊維の長繊維・同織物、同製品	31	1.9	中国	インド	ベトナム	7	ドイツ	61	3.7
39	プラスチック・同製品	29	1.7	中国	インド	スペイン	8	米国	58	3.5
48	紙・製紙用パルプ	29	1.7	米国	フィンランド	スウェーデン	9	スペイン	56	3.4
44	木材・同製品	20	1.2	ブルガリア	ロシア	米国	10	ブルガリア	48	2.9
	合計	1,666	100.0	ロシア	カザフスタン	ウズベキスタン		合計	1,666	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

### 3. 産業構造

#### <農業・畜産業>

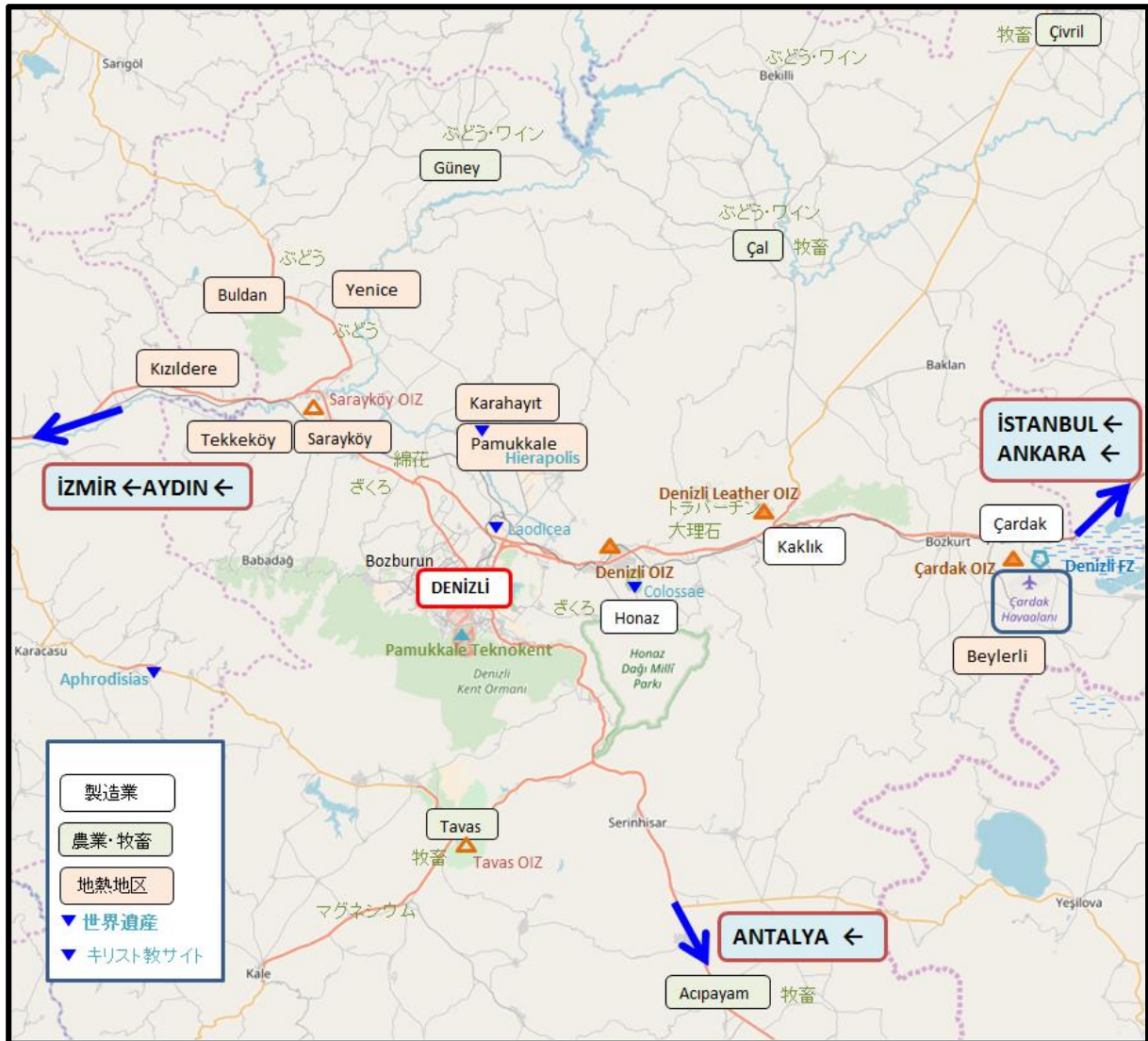
デニズリ県では、生鮮果実や乾燥果実など 125 種類の農産物が生産されており、このうち 96 種類は 62 カ国へ輸出されている。トルコ国内で生産される香草(タイム)の約 9 割がデニズリ産で、世界でも最大の生産シェア(約 70%)を誇る。また、ひまわりの種、ヒヨコマメ、ケシの実、ぶどうのほか、チャメリ(Çameli)のホオズキ、ホナズのざくろ、さくらんぼなどが知られている。

また、地熱エネルギーを利用した有機農業とグリーンハウス栽培の開発も進められている。特にサライキョイでは、地熱エネルギーを利用した農業に特化した OIZ(Sarayköy Tarıma Dayalı İhtisas Organize Sanayi Bölgesi)計画が進んでいる。

デニズリ県は、デニズリ鶏と呼ばれる独特の外観を持つ鶏でも有名で、同県のシンボルとなっている。養鶏ではチヴリル(Çivril)を筆頭に、チャル(Çal)、ブルダン(Buldan)、ギュネイ(Güney)が、牧畜全般ではアジュパヤム(Acıpayam)を筆頭に、タヴァス(Tavas)、チヴリル、チャル、パムツカレが中心地である。デニズリ南東のアジュパヤムにあるアタサンジャク(Atasancak)牧場<sup>17</sup>は、トルコ最大の乳牛牧場で、欧州でも 5 指に入るミルク生産量を誇るとされる。また、デニズリはトルコ語で「海のような」と呼ばれるように、内陸にあるにもかかわらず、河川が多く、淡水魚類に恵まれているため漁業や水産加工でも知られている。特に南部のチャメリは良質な水資源もあり潜在的に淡水漁業の可能性が高いとされている。

<sup>17</sup> <http://www.atasancak.com.tr/>

図 7. デニズリ中心部



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

### <製造業>

デニズリ県の製造業は、ホームテキスタイルを主力とする繊維・衣料品を中心に、食品、乳製品、ケーブル(銅線)、鉄合金・非鉄金属、鉄鋼製品、鉱業などで知られている。

企業活動では、イスタンブール工業会議所による ISO ランキング 500 社の中に、デニズリ企業は 11 社(501~1,000 社では 13 社)がランクインしている。また、外資系企業はドイツとトルコの合弁企業を中心に 13 社あり、主に換気機器などの機械機器を生産している。外資系企業進出件数では全国 81 県のうち第 14 位である。なお、トルコ有数の財閥のひとつであるゾルル財閥(Zorlu Holding)創業の地はデニズリ市北西のババダグ(Babadağ)で、1953 年に小規模な繊維工場から始まった<sup>18</sup>。

<sup>18</sup> <http://www.zorlu.com.tr/en/about-us/history>



## 繊維産業：

1980年代に開発が始まり、90年代を通じて大きく発展し、現在、デニズリ県最大の産業となっている。デニズリ県はトルコの繊維製品の約65%を生産し、関連企業数は1,549社とデニズリ製造業の47.1%を占める。中核となる製品は、タオル、バスローブ、ホームテキスタイル、カーテン、綿糸、綿布、衣類などである。伝統的な製品としてはオスマン時代から続くブルダン(Buldan)布はが知られ、クズルジャビヨリュク(Kızılcaölük)布と共に海外でも知られる特産品となっている。デニズリ県のホームテキスタイルは、欧米でも認知されており、同県の輸出全体の約45%を占める。ボズブルン(Bozburun)区のおザンテクス社(OZANTEKS)によると、同社は2011年の英国のウィリアム王子の結婚式に金色の刺繍タオル4万枚を提供するなどの実績も持つ。

**メンデレス・テキスタイル(Menderes Tekstil)**は、1958年に創業したホームテキスタイル(シーツ、カーテン)企業である。本社はイズミル県だが、デニズリ県の企業としてサライクヨイ(Sarayköy)に欧州最大のホームテキスタイル生産工場を有している。2016年のISOランキング500社で第187位。このほか上位企業としてはガマテクス(Gamateks Tekstil、同429位)などがある。

## 皮革工業：

デニズリ県の皮革技術は、中央アジアからもたらされたとされ、1071年にホナズ城を奪取したセルジューク朝に率いられたトルコ系部族の手によるといわれている。なお、ホナズ(Honaz)の古代名は新約聖書の「コロサイ人への手紙」のコロサイである。皮革加工のうち、牛革はトルコの牛革製造の70%を占めている。ホナズのカクルク(Kaklık)には皮革産業に特化したOIZ(Denizli Deri İhtisas Organize Sanayi Bölgesi)もある。同OIZによると、人口皮革の登場で原皮需要は世界規模で縮小気味で、価格でもアルゼンチン産には及ばないが、当地は品質で勝負したいとしている。

## 金属加工・ケーブル：

銅線・ケーブル工業は、繊維産業に次ぐ成長を続けているセクターで、特に電解液、銅線やパワーケーブルは、重要な輸出産品となっている。最大のエル・バクル銅工業(ER-BAKIR)を筆頭に、セヴァル・ケーブル(Seval Kablo)、パムッカレ・ケーブル(Pamukkale Kablo)、アトム・ケーブル(Atom Kablo)などが、ハジュエユプリュ(Hacıyüplü)区などデニズリ市周辺にある。また、コジャエル(Kocaeli Haddecilik)、カルデミル(Kardemir Haddecilik)など鉄、非鉄のローリング鍛造品、レール形鋼材などの金属加工工場も同市周辺にある。

**ER-BAKIR<sup>19</sup>**は、1981年に創業したアバルオウル・ホールディング傘下の銅線加工企業で、同分野ではトルコで第2位、2016年のISOランキング500社で第38位。デニズリ市のボズブルン区に工場を擁する。米国ニューメキシコに子会社(C. N. Wire Corporation)を持ち、同社によると米国NASA向けをはじめ、イタリア、英国、ドイツに輸出している。

## 農産畜産物・食品：

**アバルオウル(Abalıoğlu Group)**は、1969年創業の鶏肉、冷凍食品、家畜用飼料メーカー。本社はイズミル県にあるが、デニズリ、イズミル、マニサ、アイドゥン、アンカラ、サムスン各県に工場を

<sup>19</sup> <https://www.erbakir.com.tr/en/>

持つ。日本の農林水産省による日本への鶏肉輸出認可を得た 24 社の一つである。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 47 位。

**アイネス食品** (Aynes Gıda) は、牛乳、ヨーグルト、白チーズを主力とした乳製品を生産する企業でアジュパヤムにある。2016 年の ISO ランキング 500 社で第 181 位。

### **ぶどう・ワイン：**

デニズリ県では、ブルダン、チャル、イエニジェケント (Yenicekent) など、スルタナ種をはじめ、種無しぶどう (Razaki, Çal Karası, Ekse Karası, Kalecik Karası, Şira) が栽培されている。また、ギュネイ、チャル、ベキルリ (Bekilli) ではワイン生産用のぶどう栽培、およびワイン (パムッカレ・ワイン) の生産が行われている。

### **鉱物資源：大理石・トラバーチン、マグネシウム**

デニズリ県は、大理石およびトラバーチンの埋蔵量で国内では群を抜いている。特に大理石の埋蔵量では国内第 2 位とされており、カクルクのコジャバシュ・バルルク (Kocabaş Ballık) が採石場として知られる。デニズリ県には大理石に特化した OIZ 計画もあったが、立地条件などで頓挫した経緯がある。また、トラバーチンはトルコの需要全体の 40% を産出している。マグネシウムは、南西部のカレ (Kale)、タヴァス (Tavas) の両地区を中心に、トルコ国内の埋蔵量大宗を占める 400 万トンの埋蔵があるとされている。その他、ムーラ、ブルドゥル両県にまたがってクロム鉱も産出する。

### **電力エネルギー（地熱発電など）：**

エネルギー・天然資源省によると、トルコの地熱資源量は、理論的には 31,500MWt と見積もられている<sup>20</sup>。その内訳は 78% が西アナトリア、9% が中央アナトリア、7% がマルマラ地域、5% が東アナトリア、1% がその他の地域とされている。また、地熱資源の 90% は直接利用 (暖房、観光、ミネラル生産など) に適した中低温熱エンタルピーの地熱地域であり、発電などの間接利用は 10% に過ぎない。国際地熱協会 (IGA)<sup>21</sup>によると、2016 年のトルコにおける地熱エネルギー発電の設備容量は 12.8GWe だった。

トルコの地熱エネルギー開発は 1962 年に本格的に開始され、1975 年にはクズルデレ地熱発電所が稼働を開始した。しかし、1990 年代に地熱に関する関心は薄れ、開発事業は 2005 年によく再開された。この開発により、トルコの地熱熱量 (可視熱量) は 15,500MWt に達したという。

デニズリ県の地熱エネルギー資源は、アイドゥン県にわたって広がる北西部のクズルデレ (Kızıldere) 地区、このほか、テッケハмам-サライキョイ (Tekkehamam-Sarayköy)、ブルダン-ビョルメカヤ (Buldan -Bölmekaya)、イエニジェケント (Yenicekent)、ギョレメズリ (Gölemezli)、カラハユト-パムッカレ (Karahayıt-Pamukkale) を中心に分布する。地熱発電には 100℃ 以上が必要とされていることもあり、発電施設はクズルデレ、サライキョイに集まっている。

<sup>20</sup> <http://www.enerji.gov.tr/en-US/Pages/Geothermal>

<sup>21</sup> <https://www.geothermal-energy.org/>

表14. デニズリの地熱サイト

地熱地域名		エリア面積(km <sup>2</sup> )	源泉温度(°C)	利用温度(°C)	埋蔵層の厚み(km)	電力可能性(MWt)
クズルデレ	Kızildere	20	240	160	1	2,035
テッケハмам-サライキョイ	Tekkehamam-Sarayköy	15	168	120	1	1,037
ビョルメカヤ	Bölmekaya	10	85	70	0.5	140
イエニジェケント	Yenicekent	3	67	55	0.5	25
ギョレメズリ	Gölemezli	3	88	65	0.8	58
カラハユト-パムツカレ	Karahayıt-Pamukkale	10	51	45	0.2	16
電力可能性合計						3,311

出所：南エーゲ開発機構(GEKA)

ゾルル・エナジー・グループ<sup>22</sup>のクズルデレ地熱発電所は、アイドゥン県に属するが、地理的にはサライキョイの地熱サイトにある。同発電所は第1発電所(15 MW)に加え、2013年にはトルコ最大の地熱発電所となる第2発電所(80MW)が建設された。日本企業もクズルデレ第3地熱発電所(60MW)に住友商事(富士電機)や東芝が蒸気タービン、発電機などの設備を受注、納入している。ゾルル・エナジー・グループは、2016年のISOランキング500社で第394位である。

サライキョイではグリーンエコ(Greeneco)<sup>23</sup>がゾルルに次ぐ規模で地熱発電を行っており、現在も源泉の採掘を行っているが、近隣の観光温泉業者からは景観破壊に対する不満が多いとの指摘もなされている。グリーンエコはサライ・ホールディングとアジャルサン・ホールディングの合弁で2012年に設立された企業で、創業から短期間でトルコ国内6件の地熱サイトの入札案件に参入した。サライキョイのテッケキョイに2,250ヘクタールのサイトを擁し、生産可能能力は80MW、現在25.60MWの電力を生産している。

ただ、この地域はトラパーチン(石灰質化学沈殿岩:石灰華)の産地でもあることから、この地域の地熱資源は、炭酸カルシウムの付着問題を抱えている。さらに地熱発電の初期投資コストの高さもあり、地熱水を直接利用した地域暖房、グリーンハウスなど農業利用、観光といった多目的利用が一般的で、源泉が発電に利用されているのは全体の約10%となっている。

なお、デニズリ県と西に接するアイドゥン県のゲルメンジク(Germencik)地熱発電所には、三菱重工業が三菱商事と共同で同発電所のギュルマツト電力(GÜRMAT)に蒸気タービンを納めている。

牧畜が盛んなデニズリ県ではバイオガス発電のポテンシャルもあり、チヴリル、アジュパヤム、タヴァスなどが有望とされる。

トゥルカス(Turcas)は、2009年にドイツのRWE AGグループとの合弁でRWE&トゥルカス南電力会社(RWE & Turcas Güney Elektrik Üretim A.Ş.)を設立し、6億ドルの投資で、デニズリ県のカクルクに800MWの天然ガス発電所を建設した。RWE & Turcas Güney Elektrik Üretim A.Ş.は2016年のISOランキング500社で第130位。トゥルカスは、単独でアイドゥン県のクユジャク市のヨレ村に18mwのトゥルカス・クユジャク地熱発電所(Turcas Kuyucak Jeotermal Elektrik Üretim A.Ş.)を建設中。

<sup>22</sup> <http://www.zorluenerji.com.tr/en>

<sup>23</sup> [http://www.greeneco.com.tr/lng/lng\\_2/](http://www.greeneco.com.tr/lng/lng_2/)

## 観光：

デニズリ県には世界遺産でもあるヒエラポリス・パムッカレ(1988年登録)のほかにも、アジア7教会のひとつがあったラオディキア、コロッサイといった新約聖書にも記載されているローマ都市などの遺跡に恵まれており、他のエーゲ地方と同様、観光資源は豊富である。特にエフェソス(イズミル)の聖マリアの家などと組み合わせたキリスト教巡礼観光が期待されている。また2017年に新たに世界遺産に登録されたアイドゥンのアフロディシヤス遺跡もデニズリの南西に隣接している。

またデニズリ県は、パムッカレやカラハユトなど温泉観光地にも恵まれており、特に「Red Water」で知られるカラハユトは「サーマル・ヘルス・ツーリズム」の中心として開発に力を入れている。またデニズリ市の北西23キロにある地熱エネルギーの中心地でもあるサライキョイにおいても、西郊のテッケキョイ地区のババジユク(Babacık)、チャヴシュオウル(Çavuşoğlu)、イナルトゥ(İnaltı)、ウムト(Umut)といった温泉地の開発が検討されている。デニズリ県にはまた、エーゲ地方の最高峰、ホナズ山(Honaz Dağı)、カルジュ山(Karcı Dağı)、ボズダア山(Bozdağ)など山岳観光資源もある。

## 4. 産業インフラ

### <物流環境>

デニズリ市は、中央アナトリアとエーゲ地方、地中海地方を結ぶ結節点に位置している。同市と主要都市との距離は、イスタンブールまで陸路で639km、アンカラとはアフヨン・カラヒサル経由で475km、国際空港のある地中海側のアンタルヤまで220km、ムーラが145km、イズミル港が224kmなどとなっている。鉄道はトルコ国鉄(TCDD)が、デニズリ-アイドゥン-イズミルが1日6往復、イスタンブールとも1往復を運航している。デニズリ-アイドゥン-イズミル線は、デニズリ県では単線であるが、イズミルからアイドゥンのナズリまでは複線化が完了している。

デニズリ市の北東40キロ、アンカラへのルート上のカクルクにTCDDのロジスティクスセンターがある。敷地面積は12万平方メートルで、年間25万トンのローディングおよびアンローディングの処理能力を有する。主要取扱品目は繊維、大理石、セメントなど。

デニズリ市の弱点は海港が無いことだが、ハイウェイの拡充で、イズミル港(主にアルサンジャク港、アリー港)へは現在の2.5時間から2時間に短縮するものと期待されている。また、イズミルへのルート上ではサライキョイに民間(ギュナイドゥン・ロジステック Günaydın Logistic<sup>24</sup>)のロジスティクスセンターがある。

デニズリ・チャルダク空港は、デニズリ市の東、約65キロ(約50分)のチャルダク(Çardak)にあり、国鉄チャルダク駅からも南に約9キロとアクセスはあまり良いとはいえない。チャルダク国際空港にはトルコ航空(アナドルジェットを含む)、ペガサス航空のほか、国際便も運航しているが、イラン(テヘラン)便が中心で、イランの航空会社3社が乗り入れている。デニズリはカイセリ同様、イランとの玄関口となっている。

### <デニズリの公認工業地域(OIZ)、テクノパーク>

デニズリ県には3つの公認工業地域(OIZ)及び1件のFZ、テクノパークがある。トルコ政府の地域インセンティブでは同県は第2地域だが、OIZは第3地域待遇、さらに鉱業、地熱関連では第5

<sup>24</sup> <http://www.gunaydingroup.com.tr/v3/>

地域の恩典が受けられる。同県は、教育にも力を入れており、デニズリ市南郊にあるパムッカレ大学<sup>25</sup>にはテクノケント<sup>26</sup>(テクノパーク)があり、スタートアップ関連や通信インターネット関連のビジネス 95社が入居している。また、R&G、バイオ・テクノロジー、特に医療用薬草関連などが盛んに研究されている。デニズリ県には大学はパムッカレ大学しか存在しないが、学生数は4万8,000人で、「大学都市」としての色合いもある。

表15. デニズリ、ムーラ、アイトゥンの工業地域(OIZ)、フリーゾーン(FZ)、テクノパーク

デニズリOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
1	デニズリ(ホナス)	Denizli	1982	155	テキスタイル	Gamateks(テキスタイル)、Gökhan Tekstil(テキスタイル)、Mdo Değirmenci(テキスタイル)、Filidea(テキスタイル、イタリア)	<a href="http://www.dosb.org.tr/index.php?dil=1">http://www.dosb.org.tr/index.php?dil=1</a>
2	デニズリ(カルク)皮革特化	Deri İhtisas	1994	13	皮革加工、機械		-
3	チャルダク	Çardak	1996	2/7	プラスチック、ゴム	Küçükler Tekstil(テキスタイル)、FILTORQ Filter(自動車用フィルター)	-
デニズリFZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
4	デニズリ(チャルダク)	DENSER	2000	41	テキスタイル、機械	Sanko Tekstil(テキスタイル)、Funiteks(テキスタイル)、Filiz Makina(機械)	<a href="http://www.denser.com.tr/eng/freezone.asp">http://www.denser.com.tr/eng/freezone.asp</a>
デニズリ・テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
5	パムッカレ大学テクノケント	Pamukkale Üniversitesi Teknokent	2007	95	ソフトウェア開発、機械、医療		<a href="http://www.pauteknokent.com.tr/">http://www.pauteknokent.com.tr/</a>
ムーラOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
6	ミラス	Milas	1997	3	漁業、食品	Kilic Holding(漁業)、Gumusdogu(漁業)、Milas Sut Birliđi(牛乳製品)	<a href="http://www.milasosb.org.tr/">http://www.milasosb.org.tr/</a>
ムーラ・テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
7	ムーラ・テクノパーク	Muđla Teknopark (Sıtkı Koçman Üniversitesi)	2016		未稼働		<a href="http://www.muđlateknopark.com.tr/">http://www.muđlateknopark.com.tr/</a>
アイトゥンOIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業*	web	
8	アイトゥン	Aydın	1976	50	食品、農業機械	Agromey(漁業)、Maroli(オリーブ・オリーブオイル)、Jantsa(農業機械ホイール)、Titan Asia(イタリア、農業機械ホイール)	<a href="http://www.aydinoseb.org.tr/">http://www.aydinoseb.org.tr/</a>
9	アイトゥン・アスティム	Aydın Astim	1996	91	食品、機械、ゴム・プラスチック、化学品	Pekpan(サーモパネル)	<a href="http://www.astimoseb.org.tr/">http://www.astimoseb.org.tr/</a>
10	アイトゥン・オルタクラル	Aydın Ortaklar	1997	24	食品、農業機械	Ak Gıda(フランス、牛乳製品)、VS Anadolu(フランス、食品)、İtimat Peynircilik(チーズ)	<a href="http://www.ortaklaroseb.org.tr/">http://www.ortaklaroseb.org.tr/</a>
11	ソケ	Söke	1996	28	製紙、食品、セラミック、テキスタイル、セメント	Bati Kipas(製紙)、Nordzee(漁業)、KCS Kahramanmaraş(セメント)、Hayal Seramik(セラミック)	<a href="http://www.sokeoseb.org.tr/v2/">http://www.sokeoseb.org.tr/v2/</a>
12	ナーズイツリ	Nazilli	1996	20	食品、機械、ケーブル	Kırliođlu(ドライフルーツ)、Uğur Sogutma(冷凍機械)、Sartel Kablo(ケーブル)	<a href="http://www.nazillioseb.org.tr/">http://www.nazillioseb.org.tr/</a>
13	ブハルケント	Buharkent	2006		未稼働	-	
14	チネ	Çine	2003	7	食品、冷凍食品、餌料	Taris(オリーブ・オリーブオイル)、Lezita(冷凍食品)、Rodos Sut(牛乳)	<a href="http://cineoseb.org.tr">http://cineoseb.org.tr</a>

\*企業数: 稼働企業数/登録企業数。主な企業: 国名がない場合はトルコ企業。

出所: ジェトロイスタンブル事務所作成

<sup>25</sup> <http://www.pau.edu.tr/pau/en>

<sup>26</sup> <http://www.pauteknokent.com.tr/>

## V. エーゲ地方における日系企業動向

日系企業のトルコ進出は、これまで最大の消費地であるイスタンブール周辺のマルマラ地方に集中する傾向が強かった。エーゲ地方への本格的な進出はトルコ企業との合弁・買収を中心に 2015 年前後に始まり、16 年 6 月にはイズミル日本人会商工会が設立された。2017 年末現在加盟企業は日本人駐在員を置く 7 社である。エーゲ地方における日系企業の進出形態は、(1) 日系傘下の外国企業を通じた生産拠点の獲得、(2) 日系企業のトルコ企業買収あるいは合弁 (M&A) による生産拠点の獲得、(3) 独資による進出の 3 パターンがある。日系企業による、イズミルのビジネス環境に対する評価としては、物流環境、マニサ OIZ のインセンティブおよび操業環境、イズミルでの生活環境で総じて高い。

表16. エーゲ地方進出日系企業

地名	会社名	地名	会社名
トルバル	JTI (日本たばこ)	バユンドウル	Uni Gen Seeds (カゴメ)
イズミル	エゲ・タヴ(日本ハム)	ケマルパシャ	郵船インチ・ロジステック(支店)
イズミル	味の素	ケマルパシャ	関西アルタン塗料(関西ペイント)
イズミル	ヤンマー・ホールディングス	マニサOIZ	東洋インキ
イズミル	ランシノー(日本ピジョン)	マニサOIZ	サルテン・アンバラジ(三井物産)
イズミル	サンケミカル(DICグループ)	マニサOIZ	インチ GSユアサ
イズミル	DJクール(デンソー)	マニサOIZ	三菱電機

出所：ジェトロイスタンブール事務所作成

### 食品・たばこ：

- ・ JTI (日本たばこ・インターナショナル) は、1999 年の米国 RJR 社の海外資産買収に伴い同社のトルバルの生産拠点を引き継ぎ、トルコは同社にとって中東アフリカの最大拠点となっている。JTI の本部はスイスのジュネーブで、トルコを含む中東・アフリカは英国から統括する。同社は国内ではフィルサについて国内第 2 位、世界ではフィリップモリス、BAT について第 3 位のシェアを誇る。<sup>27</sup>
- ・ カゴメ (United Genetics Turkey Tohum Fide A.Ş.) は、トルコのコチ財閥と住友商事、カネコ種苗との合弁で 1987 年に進出、2013 年にコチのシェアを買収し、米国におけるカゴメの 100% 子会社であるユナイテッド・ジェネティクス傘下とした。同社は、米国からトマトなどの種子を輸入販売するほか、1997 年からはブルサのムスタファ・ケマル・パシャに育苗施設を設立し、苗の販売を開始した。2014 年にイズミルのバユンドウルに第 2 の育苗施設を開設し、トルコ最大規模の「加工用トマト」の育苗施設を持つ企業となった。
- ・ 日本ハム・エゲ・タヴ (Ege-Tav Ege Tarım Hayvancılık)<sup>28</sup>：日本ハムは、2015 年 4 月にトルコの鶏肉用ひな鳥生産の大手エゲ・タヴ社の株式 60% を買収した。今後、同社のブランド力を生かし、雛鳥だけでなく鶏肉の販売をさらに強化し、トルコ国内、更に中東をはじめとした海外にも食肉販売を広げる。

<sup>27</sup> <http://www.jti.com/about-jti/jti-glance/where-we-operate/europe/turkey/english/overview/>

<sup>28</sup> <http://bolez.com.tr/hakkimizda>

- ・味の素は、2011年にトルコ・イスタンブールに駐在員事務所を開設、13年にキュクレ食品 (Kükre Gıda) の株式 50%を買収、本格的に事業を展開し始めた。17年4月にはイズミルのオルゲン食品 (Örgen Gıda) の全株式を買収し、トルコ国内で粉末スープ、同デザートなどで知られている「Bizim Mutfak」の商標権を得た。イズミルでは南西部のギュゼルバフチェ (Güzelbahçe) に生産工場を持つ。

#### 自動車・同関連品：

- ・デンソーは、2014年10月、サウジアラビアのアブドゥル・ラティーフ・ジャミール社が2013年に設立したカーエアコン製造・販売の DJ Cool<sup>29</sup>の株式 50%を取得した。同社はイズミル・アタテュルク OIZ で「Climart」ブランドでバス・農建機用エアコンおよび冷凍機の製造を行っている。
- ・GS ユアサは、2015年6月に欧州市場開発の生産拠点として、国内第2位の自動車用鉛電池メーカー、インヂ・アキュの株式 50%を取得した。イズミルの中堅財閥インヂ・ホールディングは、OEM バッテリーの工場をマニサ OIZ に有しており、GS ユアサとの合弁事業 (İnci GS Yuasa Akü)<sup>30</sup>の拡大で17年10月に同 OIZ で第2工場の起工式を行った。第2工場は18年末頃に稼働予定。同社はすでにフォークリフト用鉛電池では国内市場で4割のシェアを獲得しており、エジプト、イラクなど主に中東・アフリカにも輸出している。
- ・ヤンマー<sup>31</sup>は、2016年8月に駐在員事務所を設立し、農業国トルコでの農機を拡販に向け、翌17年9月に現地法人とした。ヤンマーは、若者の農業離れが進む一方で、農業の機械化、集約化が遅れているトルコの小規模農家に対して、高いデザイン性やエンジン性能を切り口にハイクラスな小型トラクターを提示し、地場のトラクター企業との差別化を図る。後背地に豊かな農業地域を持つイズミルは、その拠点として最適と判断したという。

#### 空調設備：

- ・三菱電機は、2012年12月にイスタンブールに進出し、翌13年にゲネル・テクニク・システムレル買収によってハイエンドをターゲットとした工場自動化システム事業を開始した。また同社は、トルコ・欧州向け家庭用空調機の輸出拠点として、2016年に新会社 (Mitsubishi Electric Turkey Klima Sistemleri) を設立、2017年末 イズミル近郊のマニサ OIZ にて生産を開始。それまでトルコ・欧州向け家庭用空調設備は、タイから輸入してマーケット展開を行ってきたが、堅調なトルコ需要への対応、欧州向け供給期間短縮のため、トルコの工場からの製品供給に段階的にシフトしている。

#### 化学品：

- ・関西ペイント (Kansai Altan Boya)<sup>32</sup>は、2007年にオランダの塗料会社 AKZO NOBEL 社のトルコにおける子会社の全持ち株 51%を買収してトルコに進出、トルコアルタン塗料との合弁でケマルパシヤ OIZ に自動車用、一般工業用のポリマー製品を中心とした生産拠点を持つことになった。

<sup>29</sup> <http://www.climart.com.tr/>

<sup>30</sup> <http://www.incigsyuasa.com/>

<sup>31</sup> <https://www.yanmar.com/tr/>

<sup>32</sup> <http://www.kansaialtan.com/en>

関西ペイントは、2016年にトルコの**ポリサン・ボヤ**(Polisan Boya)の株式50%を買収し、建築用塗料市場にも参入している。<sup>33</sup>

- ・ **東洋インキ**<sup>34</sup>は、2015年にトルコ・イスタンブールに進出、16年2月にヤシヤル・グループのDYO印刷インキ(DYO Matbaa Mürekkepler)の株式75%を買収し、マニサ OIZ に生産拠点を得た。主力は食品パッケージ向けだが、グラビアインキ、フレキソインキ、製缶塗料、オフセットインキ、金属インキを生産・販売している。同社はトルコをハブ拠点と位置付けており、生産の13%をロシア、北アフリカ、東欧、中東、中央アジア等に輸出している。また、17年12月にはトルコでの事業拡大に向け MOSB に新たに新工場建設のための用地を取得した。
- ・ **DIC**グループの米子会社**サンケミカル**(Sun Chemical)<sup>35</sup>は、2005年に買収した CBS プリントス社のイズミル、チイリ(Çigli)のアタテュルク OIZ のインキ工場に加え、2016年に3,000万ドルを投じたパッケージ用溶剤系キッドインキ工場をアリアー OIZ に建設し、トルコを中東・欧州のマザープラント(供給拠点)と位置付けた。
- ・ **三井物産**は2015年3月、トルコの**サルテン・アンバラジ**(包装)<sup>36</sup>の株式15%を取得した。サルテンは、1972年設立のトルコ最大の総合パッケージメーカーで、食品・生活用品向け、モーターオイル・化学品用途などのスチール缶とプラスチック容器を製造している。販売先はトルコ国内だけでなく、中東・欧州・ロシア・北アフリカなど周辺国への輸出もあり、マニサ OIZ など国内13工場の他、ロシア、バルカン諸国にも工場を保有している。

#### ベビー用品：

- ・ ベビー用品大手の**ピジョン**は、2015年09月、米国の子会社**ランシノー**(Lansinoh MD)が、イズミルのエゲ FZ で哺乳瓶の新工場を設立すると発表した。ランシノーは2010年よりトルコで活動しており、ら新工場は2017年から稼働している<sup>37</sup>。

#### 物流：

**郵船ロジスティクス**は、2012年8月にイスタンブールに進出し、17年4月にトルコ現地法人とイズミルの**インヂ・ロジスティク**(Inci Lojistik)<sup>38</sup>とを統合し、**郵船インヂ・ロジスティク**(Yusen Inci Lojistik)を設立した。統合によって本社はイスタンブールに置かれたが、イズミルのケマルパシヤのほかマニサ、ブルサ、アンカラにも拠点をもち、倉庫規模は計3万㎡を擁する。ケマルパシヤは、保税に適した広い敷地があり、アルカス海運、エルマス・ロジスティクスなどが拠点を置く伝統的な物流拠点で、OIZにも隣接する(物流会社はOIZ内に拠点を置けない)。また、アルサンジャクやアリアーの港へのアクセスも良い。

<sup>33</sup> <http://www.polisan.com.tr/en/Content/Detail/128/polisan-paint>

<sup>34</sup> <http://toyoink.com.tr/en>

<sup>35</sup> <http://www.sunchemical.com/turkey/>

<sup>36</sup> <http://www.sarten.com.tr/>

<sup>37</sup> <http://www.lansinoh.com.tr/>

<sup>38</sup> <http://www.incilojistik.com/>



図 8. エーゲ地方の日系企業



出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

レポートをご覧いただいた後、アンケート(所要時間:約1分)にご協力ください。

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20180015>

エーゲ地方産業調査 イズミル、マニサ、デニズリを中心とした経済・投資環境に関して

2018年7月

---

作成者: 日本貿易振興機構(ジェトロ)  
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32  
TEL:03-3582-5180(海外調査部中東アフリカ課)

<http://www.jetro.go.jp>

---

禁無断転載